

明日をひらく地域活性化のための情報誌

# 地域づくり

## 本編

2019  
**5**

ISSN 1340-8917



**平成30年度ふるさとイベント大賞**

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです



1 巻頭エッセー／神戸市職員採用試験「デザイン・クリエイティブ枠」 久元 喜造（神戸市長）

特集

## 平成30年度 ふるさとイベント大賞

平成30年度ふるさとづくり大賞・第23回ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞表彰式の開催 2

第23回ふるさとイベント大賞表彰式 3

大賞（内閣総理大臣賞）＜1団体＞ ●与那原大綱曳まつり【沖縄県与那原町】 4

最優秀賞（総務大臣表彰）＜1団体＞ ●乙亥大相撲【愛媛県西予市】 6

優秀賞＜3団体＞ ●撮りフェス in 室蘭 2017【北海道室蘭市】 8

●2018 小出雪まつり【新潟県魚沼市】 10

●きくち夏まつり 菊池白龍【熊本県菊池市】 12

ふるさとキラリ賞＜2団体＞ ●ザ！雑巾ダッシュ！！2017 in みつえ【奈良県御杖村】 14

●鞆の津 八朔の馬出し【広島県福山市】 16

【特集編では大賞・最優秀賞ほか、全20表彰を全て紹介～特集編のみに掲載される表彰は以下の通り】

●選考委員特別賞 じないまち 四季物語【大阪府富田林市】

●次点 Reborn-Art Festival【宮城県石巻市】

J：COM×寒川 ぴっちょり祭【神奈川県寒川町】

丸山千枚田の虫おくり【三重県熊野市】

29ロードウォーク【鳥取県鳥取市、若桜町、八頭町】

あしや砂展2017【福岡県遠賀郡芦屋町】

苓北じゃっと祭「天草れいほくパーロン大会」【熊本県天草郡苓北町】

喜多方発21世紀シアター 2017【福島県喜多方市】

三國湊 帯のまち流し【福井県坂井市】

赤れんがマーケス in 舞鶴2018【京都府舞鶴市】

石見神楽と共奏、オペラ「石見銀山」の制作・上演【島根県大田市】

FUKUCHI FIND FESTIVAL 福智スイーツ大茶会【福岡県福智町】

白鬚田原神社のどぶろく祭り【大分県杵築市】

### レギュラーレポート

18 平成30年度地方創生フォーラム in 東京  
歴史・文化資源を活かした都市デザイン

20 平成30年度地方創生フォーラム in 宮崎  
連携・交流による新たな地方創生

22 移住・定住・交流推進支援事業  
長野県泰阜村・天龍村・阿南町・下條村・飯田市・箕輪町・伊那市  
「移住婚活 突撃！田舎にお嫁に  
来ませんか!?」事業を推進 松川友哉

24 国内調査報告 福岡県福岡市、大分県宇佐市  
民泊による地域活性化

26 広報室だより  
地域の課題を木育で解決する

27 地方創生ヘーウッドスタート宣言 福島県国見町  
地域巻き込み型「木育推進」の進め方 八木雄二

28 首長の思い  
「暮らして楽しい」を実現できる持続可能な  
まちづくり！ 中山正隆（和歌山県有田川町長）

### グラビア

表3 手前みそですが…【沖縄県うるま市】



神秘的な雰囲気を出す青池

問い合わせ先 深浦町観光課  
(0173・74・4412)  
(写真提供 深浦町観光課)

世界自然遺産白神山地で知られる深浦町は、青森県の日本海側に位置する自然豊かな町。マグロの水揚げ高は県内一で、青森と秋田を結ぶJR五能線「リゾートしらかみ」の人気エリア。また、どこよりも夕陽が見える町としても知られ、約80kmにわたって続く海岸線は「夕陽海岸」とも呼ばれている。

白神の玄関口となる十二湖には33の湖が点在し、それぞれの池に特徴があり、春の新緑、秋の紅葉と季節ごとに違った美しい景観を見せてくれる。池を巡る散策路も整備されており、トレッキング初心者も安心。なかでも一番の人気スポットは青池。ウッドデッキの遊歩道から覗けば、まるで青い水を流し込んだよう。水面には周囲に生い茂るフナや木々や葉が映し出され、神秘的な雰囲気を出す。その色は秋以降、だんだんと色が濃くなり、冬には黒く見える。

表紙  
白神山地・青池

(青森県深浦町)

# 神戸市職員採用試験 「デザイン・クリエイティブ枠」

神戸市長 ● 久元 喜造



神戸市では、2019年度に実施する職員採用試験に「デザイン・クリエイティブ枠」（大学卒、高専・短大卒）を新設します。大学などで美術や音楽、映像、デザインなどの芸術分野について専門的に学んだ学生を対象とする試験枠です。

「デザイン・クリエイティブ枠」の新設は、デザイナーのような専門職としてポスターやチラシ、ウェブサイトのデザインを担当する人材の獲得が目的ではありません。総合事務職として、各分野の政策の企画立案、都市型創造産業の振興などの経済活性化、景観行政などのまちづくり、観光振興、芸術文化、広報・広聴など幅広い分野の仕事に従事してもらうことを想定しています。

つまり、この枠の新設の目的は、人材の多様化です。神戸市をはじめ、多くの自治体では、試験区分は大きく事務系と技術系に分かれています。事務系の試験を受ける人材の多くは、法学部、経済・経営学部出身で、技術系は、工学部、理学部、農学部出身です。これからの大都市経営を考えると、従来の人材群に加えて、新たなタイプの人材にも職員集団に入っていただき、人材の多様化を図る必要性をこれまでも感じてきました。

神戸は、海と山があり、景観や眺望に恵まれています。街のたたずまいの個性化が進み、「神戸らしさ」が失われてきたという指摘を受けることもあります。人口減少時代を迎え、もはやいたずらに都市の規模を拡大させていく時代ではなく、むしろ、都市の価値やクオリティ、ブランド力を上げていくことが求められています。いかに創造性を発揮して魅力ある街づくりを展開していくのか問われている現在、魅力ある人材群として立ち現れてくるのが、芸術系の大学、高専・短大で学んだ学生です。

自治体はこれまで芸術系の学生にはあまり目を向けてきませんでした。しかし、現実には極めて少数ながら、

これらの学校・学科を卒業した職員が神戸市役所にも存在し、活躍してくれています。彼ら・彼女たちは、大学などで職員採用試験の出題科目をほとんど学んだことがありませんので、予備校などに通い、採用試験のために特別の勉強を余儀なくされたことは想像に難くありません。

そこで、学生みなさんに「デザイン・クリエイティブ枠」を受けてもらうため、特別の勉強を不要とする試験内容にします。真正面から芸術系の学生を迎え、神戸市役所で、思う存分その能力を発揮してほしいと願っています。

今回の「デザイン・クリエイティブ枠」創設のきっかけは、2017年12月に設置した「神戸市の人材確保方策に関する有識者会議」の提言の中で、「『デザイン都市・神戸』のdesignの取り組みを加速化させる観点から、クリエイティブな人材を積極的に受け入れるための採用制度（デザイン職）を導入すべきである」という指摘をいただいたことでした。同有識者会議からの提言を踏まえ、神戸市では、このほか、神戸市職員採用ナビゲーター（略称・KOBENAVIGATOR）制度を新設したほか、インターンシップの拡充も行いました。

一般行政200人、消防12人の若手職員からなるKOBENAVIGATORは、学生の職場訪問を受け入れ、1対1で面談を実施したり、説明会で仕事内容を説明したりして、学生に公務の現状と魅力を伝えています。また、インターンシップでは、自治体の生の仕事を体験できるプログラムの導入、若手職員との交流、参加学生同士の交流・情報交換の機会を設けています。

ひとりの価値観で塗り固められた組織は、一見逞しそうに見えるけれども、実は弱いのではないかと思います。それぞれ異なる音色を持つ多様な人材が組織を強くすると信じます。

## 平成 30 年度ふるさとづくり大賞・第 23 回ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞表彰式の開催

平成 31 年 3 月 13 日（水）に総理大臣官邸にて、「平成 30 年度ふるさとづくり大賞」及び「第 23 回ふるさとイベント大賞」の内閣総理大臣賞表彰式が開催されました。

表彰式では、安倍晋三内閣総理大臣から受賞者の豊重哲郎氏（ふるさとづくり大賞・鹿児島県鹿屋市）、与那原大綱曳まつり運営委員会（ふるさとイベント大賞・沖縄県与那原町）に表彰状と記念楯が授与されました。安倍首相は、受賞者の地域づくり活動の業績を讃えた上で、「皆様の活動は、ふるさとを愛する気持ちにあふれた、素晴らしいものと感じました。ふるさとを愛する気持ちを育み、誇りあるふるさとをつくる、この精神こそ、魅力ある地方を創生する力の源泉です。政府としては、引き続き、ふるさとづくりを力強く後押ししてまいりますので、皆様方にも、なお一層御活躍いただきますことを御期待申し上げまして、お祝いの御挨拶とさせていただきます。」と述べられました。



平成 30 年度ふるさとづくり大賞  
豊重哲郎氏  
(鹿児島県鹿屋市)



第 23 回ふるさとイベント大賞  
与那原大綱曳まつり運営委員会  
(沖縄県与那原町)



豊重哲郎氏への表彰状授与



与那原大綱曳まつり運営委員会への表彰状授与

# 第23回ふるさとイベント大賞表彰式・平成30年度地方創生フォーラム in 東京を開催

(一財)地域活性化センターでは、平成31年3月1日(金)にベルサール飯田橋ファーストにて「ふるさとイベント大賞」と「地方創生フォーラム」を開催し、多くの皆様にご参加いただきました。



受賞者の皆さん



総評を述べる北川委員長と角田委員



表彰式の様子

## ■プログラム

13:00～ 第23回ふるさとイベント大賞 表彰式

14:10～ 平成30年度地方創生フォーラム in 東京「歴史・文化資源を活かした都市デザイン」

【基調講演】西村 幸夫 氏(神戸芸術工科大学教授、東京大学名誉教授)

【パネルディスカッション】保井 美樹 氏(法政大学現代福祉学部教授)

宮城 俊作 氏(宗教法人平等院代表役員、放送大学教授)

青木 悟 氏(長野県下諏訪町長)

中村 和宏 氏(金沢市都市整備局定住促進部長)

## 選考委員長の総評

北川 フラム氏 株式会社アートフロントギャラリー代表取締役/アートディレクター



©Mao Yamamoto

今回の受賞イベントについては、それぞれの地域で、皆さん熱意をもっていろいろ工夫して、その地域を出そうとしていることに感銘を受けました。

さらにその特色は歴史なり記憶なりに由来しているものが多いことです。

また、うまくいっているイベントはその場所の特徴に的確に合わせたものでした。

今、地域が持つ土地の特質、歴史、生活、食事を組み合わせ、なお参加度が高いものによって誇りをもつようなイベントが力をもってきていて、嬉しいことです。



## 評価のポイント

- 440年余りの歴史と伝統がある。
- 町を象徴する一大イベントで、地域の知名度アップに貢献している。
- 延べ3万人の動員があり、地域の内外を問わず多くの人を惹きつける魅力がある。
- 町民問わず誰もが、綱を「作る」「担ぐ」「曳く」ことができる参加型のまつりである。
- 園児は踊りを練習し、小学生は田植えや稲刈りをし、中学生は太鼓をたたき金鼓隊（きんこたい）や前舞い（メーモーイ）で祭りに参加する。子どもから大人まで、幅広い世代が地域と関わりを持ってまつりを開催しており、地域住民の連帯の強さを感じる。
- 親から子へ孫へ、伝統文化の継承に取り組んでいる。
- 町民には「大綱曳の日はみんなが与那原（よなばる）に帰る日」という認識があるなど、地域住民の郷土意識の高揚に繋がっている。

## 次回 開催日程

- 開催日：2019年8月3日（土）、4日（日） ■ 開催場所：沖縄県島尻郡与那原町御殿山青少年広場
- 問い合わせ先：
  - ・ 団体名 与那原大綱曳まつり運営委員会
  - ・ 住所 〒901-1392 沖縄県島尻郡与那原町字上与那原16番地
  - ・ 電話番号 (098) 945-5323 ・ URL <https://yonabaru.okinawa/>（与那原ナビ）

# 大賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞

### 与那原大綱曳まつり

今から440年ほど前、大切な稲が害虫に食べられ、人々は飢餓に苦しみました。「町中で鐘や太鼓を打ち鳴らし、大きな声をあげて大綱を曳きなさい」と山のおじいから言葉を授かりその通りにしたところ、害虫が全滅し豊作に。それから与那原で綱曳が行われるようになりました。以前は、町の一部だけでの綱曳でしたが、昭和58年からは、各区で作った綱を大綱曳前日に締め合わせ、東西合わせて5トン、90メートルの大綱をみんなで曳き合う現在の「与那原大綱曳まつり」の形に変化していきました。

実は、まつりの準備は、終わった直後から始まります。年が明ければ町内の5つの拝所で五穀豊穡、無病息災、子孫繁栄を祈り、旧暦4月15日には害虫を払う「アブシバレー」を行います。毎月稲の成長への感謝や大綱曳の成功を祈願し、本番1カ月前からは藁を仕入れ、本格的に綱作りがスタートします。老いも若きも男も女も町中の人々が集まって綱を作り、鉦鼓（ソグ）や太鼓のたたき方、踊り方、旗頭の持ち方などの練習をします。小学生は田植えや稲刈りをし、中学生は太鼓をたたき金鼓隊（きんこたい）や前舞い（メーモーイ）でまつりに参加します。園児たちも踊りを練習し、大綱を作る綱武士（ちなむし）たちを応援します。

大綱曳当日。安全と大綱曳の成功を祈願し、気持ちを奮い立たせる「ガーエー」で氣勢をあげます。カナチ棒を先頭に、旗頭、六尺、ドラ・ボラ、金鼓隊、支度、前舞いたちが鐘の音と掛け声で盛り上げ、その音は町中に響き渡ります。さあ、いよいよ本番です！大綱の上に14人の支度が乗って道ジュネー（行列）。まるで龍神が天に舞うがごとく荘厳な姿に皆が引き寄せられ、大綱が会場に入ると一気にヒートアップ。東西の大綱が結合した隙間にカナチ棒が入った瞬間、大綱がたたき落され綱曳がスタートです！！会場中の人々が手綱を曳き、大綱は大蛇のようにうねり、与那原大綱曳は最高潮に達します。

皆が全力を出し切った結果、勝敗はつくものの、「曳き清らさ、勝ち清らさ、負け清らさ（ひきちゅらさ、かちゅらさ、まけちゅらさ）」＝「勝っても負けても和気あいあい」という言葉があるのも、与那原大綱曳の美しさです。町民だけでなく誰しもが、綱を「作る」「担ぐ」「曳く」ができる参加型のまつりであることも、与那原大綱曳まつりの醍醐味の一つです。

### 主催者メッセージ



「サー！サー！サー！サー！！」の掛け声と共に「カンカンカン」と鳴り響く鉦鼓（ソグ）の音。風にのせて踊る旗頭に華やかな女性たちの舞。大綱曳本番前に氣勢をあげるガーエーと、支度（したく）が大綱の上に乗って練り歩く昇龍のような荘厳さ。カナチ棒が入った瞬間に大綱がたたき落されるド迫力を、ぜひ体感してください。

与那原町役場 観光商工課  
地域おこし協力隊

相羽 としえさん



沖縄県  
与那原町

### 開催DATA

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 自治体名  | 沖縄県与那原町                                        |
| 自治体人口 | 19,805人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 与那原大綱曳まつり運営委員会                                 |
| 開催回数  | 36回（2018年）                                     |
| 開催日   | 旧暦6月26日直後の週末土日（基本）                             |
| 開催場所  | 与那原町御殿山（うどうんやま）<br>青少年広場                       |
| 観客数   | 延べ30,000人                                      |



被災前の乙亥会館

## 評価のポイント

- 長い間継続して開催されており、地方の祭として定着している。
- 相撲の町としての認識が広まっており、相撲が地域振興の下地となっている。
- 一番の見どころは、実業団や大学生などのアマチュアトップ選手とプロの若手力士が激突するプロ・アマ対戦で、特徴がある。
- 地区の誇りをかけた住民対抗戦は地域の絆を深めている。
- 当日運営はもちろん、事前準備など地域住民が積極的に参加しており、イベント開催にあたり地域住民の関わりが深い。
- 戦時中でさえ一度も絶やすことなく続けてきた乙亥大相撲への住民の想いは強く、7月の豪雨被害の復興の励みにもなっている。

## 次回 開催日程

■開催日：2019年11月26日（予定）

■開催場所：野村公会堂

■問い合わせ先：

・団体名 西予市観光協会野村支部

・住所 〒797-1212

・電話番号 0894-72-1115 ・URL n-sanken@city.seiyo.ehime.jp

最優秀賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

# 乙亥大相撲

嘉永5年(1852年)6月25日に、町内の4地区が全焼、総罹災戸数100戸、棟数260棟という大火災が起こりました。これらの火災が二度と起こらないように火除けの神として愛宕山に愛宕神社を祭祀し、以後100年にわたり旧暦10月の乙亥の日に三十三結の願相撲を奉納し、無火災を祈願したのが始まりです。祈願相撲は1952年に終わりましたが、地方祭として定着してきたことから、野村町三大まつりの一つとして盛大に継続されています。

相撲は、全国の一般実業団や大学生などのアマチュアトップ選手と、大相撲の若手有望力士が激突する全国で唯一のプロアマ対戦が一番の見所となっており、激しい取組が繰り広げられます。また幕内力士による稚児の土俵入りや、地元の小・中・一般青年の対抗戦、乙亥太鼓演奏、初っ切りなども行われ、2日間の乙亥祭りは町が相撲一色で賑わいます。

過日の2018年7月豪雨災害では、会場となる乙亥会館に2階部分まで濁流が流れ込み、壊滅的な被害を受けました。しかしながら、戦時中でさえ一度も絶やすことなく続けてきた乙亥大相撲への住民の想いは強く、167回目となる乙亥大相撲も会場を変更して開催しました。これまでの会場は使用できませんので、代替場所に一から土俵を作ることとなり、地域の皆さんが、乙亥大相撲開催のため、また復興への願いを込めて4日間かけて作った珠玉の土俵が完成し、無事に開催することが出来ました。

また、2017えひめ国体では、約600人の相撲競技選手団を地域全体で民泊して受け入れました。豪雨災害直後には、その時の民泊先を案じて日本全国から多くの国体選手が駆けつけて下さり、復旧活動にご協力いただきました。今回の乙亥大相撲では、その選手たちが土俵上で大熱戦を繰り広げ、住民の皆さんは勇気づけられ、絆も一層深まりました。

これからも相撲の町として、乙亥大相撲が復興に向けての一助となるよう努めてまいります。

## 主催者メッセージ

今回の乙亥大相撲の開催については、避難所や被災地を回って被災された方がどのようなご意見をお持ちか伺って参りました。ほとんどの方から「例年通りやってほしい」という声を聞き、また辛い立場の被災者から「運営は大変と思うが頑張ってください」と反対に励ましの言葉もかけてくださいました。改めて地域になくてはならないイベントだと実感しました。

西予市観光協会野村支部  
支部長

米田 直さん



## 開催DATA

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 自治体名  | 愛媛県西予市                                         |
| 自治体人口 | 38,019人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 西予市観光協会野村支部、西予市、西予市教育委員会                       |
| 開催回数  | 167回                                           |
| 開催日   | 11月下旬                                          |
| 開催場所  | 乙亥会館<br>(~ 2020.3 豪雨災害復旧工事中)                   |
| 観客数   | 約6,000人                                        |



## 評価のポイント

- 北の大自然がつくり出した自然景観と工場夜景などの産業景観を併せ持ち、それらが共存・融合している室蘭の魅力を地域資源として活用したイベント。
- 通常のフォトコンテストとは異なり、2日間・24時間という制限時間の中で撮影から作品提出までを行うなど、独創性のある企画内容となっている。
- 参加者の作品を通じて地域の魅力を発信している。
- 普段は立ち入ることができない特別な撮影スポットを行政と民間企業の協力を得ながら開放するなど、官民が一体となって魅力を増すための創意工夫を図っている。
- 参加者が撮影した写真はイベント翌日から写真展で展示され、市の知名度向上に繋がっている。また、地域住民自身も気づいていなかった町の景観の魅力に改めて触れることで、郷土意識の高揚に貢献している。

## 次回 開催日程

■開催日：2019年7月6日（土）～7月7日（日）〈予定〉 ■開催場所：北海道室蘭市全域  
 ■問い合わせ先：・団体名 撮りフェスin室蘭実行委員会  
 ・住所 〒051-0022 北海道室蘭市海岸町1-5-1 室蘭観光協会内  
 ・電話番号 0143-23-0102 ・URL <http://tori-fes.com/>

優秀賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# 撮りフェス in 室蘭 2017

室蘭は、アイヌ語で「小さな・下り路」という意味の語源の通り、小さいながらも起伏に富んだエリアです。そこに北の大自然が作り出した自然景観と工場夜景などの産業景観を併せ持ち、それらが奇跡的に共存・融合しています。少し歩くだけで目の前の景色がめまぐるしく変わる、まさに被写体としての魅力に溢れた町です。撮りフェス in 室蘭は、室蘭の観光資源の原点でもある「景観」の価値に着目し、室蘭の町を24時間という制限時間内に自由に散策しながら、町が持つ被写体としての魅力を写真に収めていく滞在型フォトコンテストです。通常のフォトコンテストとは違い、2日間・24時間という制限時間の間に撮影から作品提出までを行います。撮影場所は室蘭市内全域で、普段は立ち入ることのできない特別な撮影スポットを行政と民間企業等の協力を得ながら開放しています。またプロの写真家と巡る撮影ツアーや作品講評とトークも開催し、「写真」をきっかけとして地域が盛り上がるフォトコンテストです。

### 主催者メッセージ

室蘭は行くたびに新鮮な経験がある「フォトジェニック」なまちです。撮影する場所やアングル、時間や季節でも、その時々で様々な表情を見せてくれます。撮りフェス in 室蘭は、まだ回数が少ないイベントながら、年を重ねるごとに参加者も増え、毎回参加して下さる参加者もいます。あなたも「世界がまだ知らない室蘭」を発見しに来ませんか。

撮りフェスin室蘭実行委員会  
(所属：株式会社EPOCH)  
実行委員長

川島 佳峻さん



### 開催DATA

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 自治体名  | 北海道室蘭市                                         |
| 自治体人口 | 84,405人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 撮りフェス in 室蘭実行委員会                               |
| 開催回数  | 2回                                             |
| 開催日   | 2017年9月16日(土)～9月17日(日)                         |
| 開催場所  | 北海道室蘭市全域                                       |
| 観客数   | 参加者数272人<br>関係住民 約100人                         |



新潟県  
魚沼市

## 評価のポイント

- マイナスのイメージが大きい雪を「楽しみ」に変えようという発想から始まったイベント。
- 雪合戦発祥の地を掲げて開催される雪合戦はリピーターも多く、毎年人気が高い。外国人チームの参加もある。
- 雪合戦前日は参加チームに郷土料理や地酒が振る舞われ、参加者や地元の人が交流を図っている。
- 遊び心を持って競技を行うことを心得としており、雪合戦当日は、豪雪地域特有の民具を身につけ、様々なコスチュームやパフォーマンスでイベントを盛り上げている。
- 大会の景品は、魚沼産コシヒカリや地酒など魚沼ならではのものを用意しており、会場では魚沼産コシヒカリが無料で提供される。市民も町内会単位でかまくらを作り、来場者に楽しんでもらうなど、魚沼の文化の発信に繋がっている。

## 次回 開催日程

- 開催日：2020年2月8日（土）、9日（日）予定
- 開催場所：響きの森公園雪のコロシウムほか
- 問い合わせ先：
  - ・団体名 小出雪まつり実行委員会
  - ・住所 〒946-0011 新潟県魚沼市小出島1209番地11 小出商工会内
  - ・電話番号 025-792-2124 ・URL <http://seinenbu.uonumakoide.com/yuki/>

優秀賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# 2018 小出雪まつり

毎年2月に2日間にわたり開催され、小出雪まつり実行委員会を中心に、市民の力で地域活性化を目指しています。特に小出国際雪合戦（2019年から魚沼国際雪合戦に名称変更）は、雪合戦発祥の地を掲げ、これまで31回開催しています。大会前日は、商店街を雪灯籠でライトアップして参加チームをお出迎えします。前夜祭交流会では、郷土料理や地酒を振る舞い、参加者同士や市民との交流の場となっています。大会当日は、豪雪地域特有の道具「こしき」などを使って、雪合戦を楽しみます。この雪合戦大会は遊び心を持って競技を行うことを心得としていて、選手達はコスチュームやパフォーマンスで会場を盛り上げています。大会の景品は、魚沼産コシヒカリや地酒、地元温泉の宿泊券など魚沼ならではの品ばかりで、会場内では特産の魚沼産コシヒカリが食べ放題です。市民も町内会単位でかまくらを作り、来場者に振る舞うなど、訪れた方と市民が一体となって盛り上がるイベントです。

### 主催者メッセージ

魚沼市は日本有数の豪雪地帯ですが、小出雪まつりは訪れた方と市民が一緒になってその雪を楽しむイベントです。雪を地域資源として活用しようと平成元年から小出国際雪合戦を始めました。リピーターも多く、冬季以外でも選手と役員の枠を超えて仲良くさせていただいています。一緒に盛り上げていただける皆様のお越しをお待ちしています。



小出雪まつり実行委員会／  
小出商工会青年部 副部長

関 和雄さん



### 開催DATA

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 自治体名  | 新潟県魚沼市                                         |
| 自治体人口 | 36,368人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 小出雪まつり実行委員会                                    |
| 開催回数  | 31回（2019年時点）                                   |
| 開催日   | 毎年2月中旬                                         |
| 開催場所  | 響きの森公園雪のコロシウムほか                                |
| 観客数   | 16,000人                                        |



熊本県  
菊池市

## 評価のポイント

- 市民広場前の県道を封鎖し、200メートルの県道区間を2体の雄雌の白龍が巨体を折り曲げて蛇行し、すれすれで交錯するパフォーマンスは迫力満点で多くの観客を魅了する。
- 雄龍・雌龍は大人、若龍は中高生、子白龍は小学生が担ぎ上げるなど、幅広い世代の担ぎ手により、菊池白龍は未来に継承されている。
- ステージイベントなどを通して、多くの地域住民が様々な形で祭りに参加している。
- 人気アーティストのライブや首都圏のイベントにおいて数万人の観客の前で演舞を披露しており、菊池市の知名度向上につながっている。
- 地域や学校のイベントに積極的に出演し、地域への密着度が高い。

## 次回 開催日程

■開催日：2019年8月10日（土） ■開催場所：菊池市民広場一帯

■問い合わせ先：

- ・団体名 菊池市役所 商工観光課
- ・住所 〒861-1331 熊本県菊池市隈府888番地
- ・電話番号 0968-25-7223 ・URL <http://www.city.kikuchi.lg.jp/>

優秀賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# きくち夏まつり 菊池白龍

きくち夏まつりの象徴である菊池白龍は、1997年に菊池白龍伝説を再現して制作されました。巨大白龍の雄龍と雌龍は1体、全長50メートル、総重量500キロにもなる巨大白龍です。この白龍のほかに、2005年、子ども達にも担がせたい、思い出を作らせたいとの思いから子白龍を作成し、2018年には、担ぎ手の裾野を広げることを目的に若龍が制作され、雄龍・雌龍は大人、若龍は中高生、子白龍は小学生と若い世代の担ぎ手により、菊池白龍は未来に継承されています。まつりは、4体の龍が地元商店街を練り歩き、クライマックスには、会場前の道路を封鎖して雄龍・雌龍2体による蛇行演舞は迫力満点です。最近では、県外からの観客や担ぎ手が増え、菊池の夏を代表する一大行事となっています。龍の中でも白龍は、幸せを呼ぶとされる吉兆龍であり菊池市が豊かになる予兆として、事あるごとに現れ菊池市を幸せへと導いてくれる守護神として市民に愛されています。

### 主催者メッセージ



「きくち夏まつり」は菊池の白龍伝説を再現して作成した白龍4体による練り歩き・演舞やステージイベントが行われ、菊池の夏を代表するイベントです。迫力満点の白龍と勇ましい担ぎ手達に会いにぜひ菊池市へお越しください。

菊池市祭実行委員会  
会長（菊池市長）

江頭 実さん



### 開催DATA

|                      |                |
|----------------------|----------------|
| 自治体名                 | 熊本県菊池市         |
| 自治体人口                | 49,073人        |
| ※2018.12末現在の住民基本台帳人口 |                |
| 主催団体                 | 菊池市祭実行委員会      |
| 開催回数                 | 24回            |
| 開催日                  | 毎年8月7日に一番近い土曜日 |
| 開催場所                 | 菊池市民広場一帯       |
| 観客数                  | 30,000人        |



奈良県  
御杖村



## 評価のポイント

- 昔ながらの姿が残る旧校舎を地域資源として活用し、シンプルな企画ながらも独創性のあるイベント。
- 地域のコミュニティを中心に人々が積極的に参加し、郷土愛の醸成に繋がっている。
- テレビや新聞に取り上げられ知名度の貢献に繋がっている。

## 次回 開催日程

- 開催日：2019年10月14日（予定）
- 開催場所：みつえ体験交流館
- 問い合わせ先：
  - ・団体名 御杖村役場
  - ・住所 〒633-1302 奈良県宇陀郡御杖村大字菅野368
  - ・電話番号 0745-95-2001 ・MAIL thezoukindash@vill.mitsue.nara.jp

ふるさと  
キラリ賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# ザ! 雑巾ダッシュ!! 2017 in みつえ

「みつえ体験交流館」は、旧小学校をリノベーションした体験型交流施設で、竹細工や陶芸、コーヒー焙煎などを体験できます。

昔ながらの姿をそのまま残す同施設は、101メートルの長い廊下が自慢。本イベントでは、その長い廊下を活用し、雑巾がけ大会を実施します。目指すのは、世界記録認定に必要と言われている「16秒68」の更新。

大会は100メートルの他にも、子どもや女性も気軽に参加できる50メートルや、2人1組で走るダブルス、4人1組のチームで競うリレーなど、様々な種目を実施。子どもたちには「珍しい木造小学校の雰囲気を感じながら」、大人たちには「子どもの頃を思い出しながら」楽しく走っていただけるイベントです。

各種目優勝者には、「100合のお米」と、御杖村産の木材を使用した「木彫りのメダル」を贈呈。

また、会場では「御杖うまいもん市」を同時開催。御杖村の特産品やグルメなど、村自慢の味で参加者をもてなします。

### 主催者メッセージ

全国的にも珍しい101メートルの廊下を使った雑巾がけイベント「ザ! 雑巾ダッシュ」。

100メートルのスタートラインに立つと、あまりの長さに不安になる選手もまわりの声援に後押しされゴール。家族や友達と懐かしい木造校舎での雑巾がけを会場全員で楽しめるイベントになりました。笑顔あふれるこのイベントに廊下をぴかぴかに磨いて皆様のご参加をお待ちしております。



御杖村村長  
伊藤 収宜さん



### 開催DATA

|       |                                               |
|-------|-----------------------------------------------|
| 自治体名  | 奈良県御杖村                                        |
| 自治体人口 | 1,690人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 御杖村                                           |
| 開催回数  | 2回                                            |
| 開催日   | 2017年10月9日（体育の日）                              |
| 開催場所  | みつえ体験交流館                                      |
| 観客数   | 約300人（参加者148人）                                |



## 評価のポイント

- 江戸時代から昭和初期まで続いていた伝統行事を17年前に地元の有志が復活させたもので、伝統文化の継承に繋がっている。
- 低予算で開催しながらも、地域のコミュニティを中心に人々が集まり交流に繋がっている。
- 60名もの子どもたちが参加し、中学生だけに任せて馬を引かせるなどの特色があり、子どもたちが地元に関心と誇りを持つ機会となっている。

## 次回 開催日程

■開催日：2019年9月の第1日曜日

■開催場所：福山市鞆町

■問い合わせ先：

・団体名 鞆の津 八朔の馬出し実行委員会

・住所 〒720-0202 広島県福山市鞆町後地536番地1

・電話番号 084-982-1121 ・URL <http://www.tomo-rekimin.org/index.php>

ふるさと  
キラリ賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# 鞆の津 八朔の馬出し

八朔とは旧暦の8月1日のことを言い、この日には物品を贈答して日ごろの感謝の気持ちを伝えたり、農家では米の豊作を祝う行事や子どもの成長を祝う行事を行ったりと地域によってさまざまな特色があります。

潮待ちの港として栄えた鞆では、長男が生まれると、木製の白い馬と台のセットを作り、町中を引き廻して健やかな成長を祝う珍しい行事がありました。江戸時代から続いていた行事ですが、昭和初期に廃れ、17年前（2002年）に地元の協力により復活しました。今では、男児だけではなく、男女問わず子どもの健やかな成長を祈り、鞆の浦の風情あるまちなかを「八朔の馬」の行列がゆっくりと進みます。

地元の企業や有志から協賛も多く、また子どもたちは毎年約60人の参加があります。地元の人に伝統行事として再認識してもらい、誇りに感じてもらうような行事となっています。

### 主催者メッセージ

年代物の馬から現代版の馬まで約10台が古い町並みを進み、子ども達の笑顔溢れる姿を地域の人々が沿道で声援します。出発前には中学生の太鼓の演奏、また大人達が音頭を取りながら行列を盛り上げます。ゴール地点では、地元女性陣による「八朔の料理」が参加者や見学者に振る舞われ、町をあげて子ども達の成長を祝います。

鞆の津 八朔の馬出し実行委員会  
事務局長

通堂 博彰さん



広島県  
福山市



### 開催DATA

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
| 自治体名  | 広島県福山市                                          |
| 自治体人口 | 469,878人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 鞆の津 八朔の馬出し実行委員会                                 |
| 開催回数  | 17回                                             |
| 開催日   | 2018年9月2日（日）                                    |
| 開催場所  | 福山市鞆町                                           |
| 観客数   | 2,000人                                          |

# 歴史・文化資源を活かした 都市デザイン

—東京大学名誉教授の

西村幸夫氏が基調講演—

本年3月、平成30年度地方創生フォーラム in 東京が開催された（第23回ふるさとイベント大賞表彰式と同時開催）。都市デザインを考える際に歴史・文化資源をどのように活かすべきなのか、をテーマに基調講演とパネルディスカッションが行われた。

基調講演…

歴史・文化資源を基盤として、  
地域の物語を  
いかに磨き上げるか

はじめに、「歴史・文化資源を活かした都市デザイン」と題し、西村幸夫氏（神戸芸術工科大学教授、東京大学名誉教授）が基調講演を行った。

西村氏はまず、「都市デザイン」と「歴史・文化資源」という一見異なる分野に思える2つの考え方は密接な関連があり、時代とともにストックからフロー中心の考え方へと変化してきている状況を述べた。その上で、都市デザインは、単独で自立するようなコンセプトを持つ巨大

な建築物という考え方から、今ある資源を活かし個性を磨き上げること  
で地域の文脈に則したものが求められるという考え方に変化し、歴史・文化資源は都市計画上の例外として単に保存しておくのではなく、地域の持つ個性として磨き上げるべきものに変化していると述べた。

また、平成30年に文化財保護法が改正され、文化遺産保存及び活用計画が地域計画として策定可能となったことで、歴史・文化資源を個性として活用し市民の合意を得ながら地域の物語を積み上げていくことが重要になると語った。

地域の物語を積み上げ、歴史・文化資源を活用したデザインの具体例の一つとして、上野公園内の不忍池

を挙げた。歌川広重が江戸時代の不忍池を描いた浮世絵「上野清水堂不忍ノ池」のように、清水堂の舞台からみる不忍池を円形に湾曲した「月の松」を通して見るという当時流行した風景を再現することで、上野公園のコンセプトだった「不忍の池を琵琶湖、弁天堂を竹生島に見立て、清水の舞台から琵琶湖をみる」という地域の物語を引き出すことができたと解説した。地域の持つ歴史的背景を読み取り、都市の強みを物語として生み出し、磨き上げることで都市デザインの可能性が広がっていくと述べた。

最後に、「都市は多くの書き手がそれぞれの意図をもって書きつないできた本であり、住民はその読者であり、著者の一人であり、登場人物にもなりうる。都市との関わりは歴史の中で次世代へと引き継ぐ責任が生まれる」と締めくくった。

パネルディスカッション…  
歴史・文化資源を活かした  
まちづくりの取り組みは  
身近なところから始まっている

続いて、西村氏のコーディネートの下、4人のパネリストによるディ

スカッションが行われた。

宮城俊作氏（宗教法人平等院・代表役員、放送大学教授）は「ローカリティをみせるしつらえ」と題し、自身が携わった世界遺産・平等院をはじめとする事例を紹介しながら、地域性（ローカリティ）を魅力的にするための考え方を「しつらえ」と表現した。

近年のITやSNSの発展によって、地方と世界が直接的につながってきており、暮らしの文化に密接した観光の需要が日本を訪れる外国人



西村幸夫氏による基調講演

観光客の間で高まっている。こうした状況を背景に宮城氏は、ローカリティは地方だけでなく東京にもあることから、「東京VS地方ではない」こと、市民と専門家が対立するのではなく一緒に魅力を生み出す方法を考える必要があること、〇〇らしさ、という言葉は意識するとがなじがらめになってしまい、解釈を巡り対立を生み出してしまふことから、「し

つらえ」という場をセッティングすることで、だれもが関わる機会を提供できる空間を生み出しローカリティを多くの人にアピールできると語った。

中村和宏氏（石川県金沢市都市整備局定住促進部長）は、「歴史都市金沢のまちづくり」と題し、金沢市が歴史的資源をまちづくりにどう活用しているのかを語った。

金沢市は戦災や大規模な自然災害に遭わなかったため、金沢城や東茶屋街といった近世以降の歴史資源、工芸技術、伝統文化などが重層的に残っている「フルセットの城下町」であり、かつての街路網や用水網などを活かしたまちづくりが行われている。近年では暗渠化した用水路を開渠しかつて用水のまちとして栄えた当時の風景を再現した事例、江戸

決定に当たり「江戸時代の宿場町の面影を残すようなまちなみにしよう」というコンセプトを地域住民と共に決定、歴史的な景観を保全した。また、町民の認知度を高めると同時に観光資源とするため、歴史的資源である「大灯籠」、諏訪大社下社の「春宮」「秋宮」の三点を結んだ「三角八丁」と呼ばれる一帯で街歩きイベントを開催するなど、古くからある資源を活用して取り組んでいると語った。

保井美樹氏（法政大学教授）は「地域資源を活かした都市デザイン」エリアマネジメントの視点から」と題し、これからの都市デザインには人間中心の都市空間の実現が必要だが、設計、施工という段階を踏むに連れて、施設やまちのビジョンを考えた上で運営をどうするのか、という視点が欠けてしまいがちであり、初めに「誰が、どのように地域の中で運営していくのか」という視点から都市デザインを構築する必要があると語った。

最後に西村氏は「歴史・文化資源を活かした先進的な取り組みは全国各地で始まっている。ゼロから何かを作らなくても、身近にある資源の可能性に気づき、支援を行うこと、利用する人や運営の仕方を考えいずれば経済的に自走できる仕組みを作ることがこれからの自治体に求められる」と締めくくった。



パネルディスカッションの様子①



パネルディスカッションの様子②

青木悟氏（長野県下諏訪町長）は、「下諏訪町における歴史・文化資源を活かしたまちづくり」と題し、下諏訪町の取り組みについて語った。下諏訪町では、まちづくりの方針

## 連携・交流による

### 新たな地方創生

—相互の魅力を活かした

都市と地方の連携モデル—

地域活性化センターでは、地方創生に関して開催地の現状に即したテーマでフォーラム（地方版）を開催しており、平成30年度の第3弾として、平成31年2月8日に、宮崎県と共催で「連携・交流による新たな地方創生」相互の魅力を活かした都市と地方の連携モデル」をテーマに、地方創生フォーラムin宮崎を開催した。会場の宮崎観光ホテル（宮崎県宮崎市）には、宮崎県内を中心として、民間企業、行政、地域づくりの実践者など、約200人の方々が集まった。冒頭、宮崎県の河野俊嗣知事、当センター理事長の椎川忍による主催者挨拶があり、その後、基調講演とパネルディスカッションが行われた。

#### 基調講演…

#### 「連携・交流による 新たな地方創生」

基調講演として、株式会社TMOフィス代表取締役でPRプロデューサーの殿村美樹氏から、地方と文化のPR戦略について、「今年の漢字」や「ひこにゃん」といった国民的ブームの事例も交えながら講演頂いた。殿村氏は、地方のPRの起点は地域の魅力であり、地域の強みにスポットを当てて、メディアと協働すること

とで、地域の強みを文化やブランドへ高めていくことが重要であると述べられた。その上で、地方における地域ブランド戦略について、良いところを相手に知ってもらうというwin-winのPR方法をとることで、お金をかけずに今あるもので地域のPRをすることは可能であると話された。殿村氏は、広告を北風に、PRを太陽に例え、太陽のように自然と人々が寄ってくる雰囲気を作り出すことが重要であると述べられた。

地域の魅力を最大限伝えるポイントとして、「一引き二運三器量」という言葉を挙げ、その中で、「引き」と「運」が重要であることを、「今年の漢字」を例に説明された。「引き」は伝え方、「運」は句、「器量」はモノづくりを指すと説明した上で、日本人はモノづくりは得意だが、伝え方と句を苦手としているため、「今年の漢字」は、その漢字に伝え方として清水寺で大々的なPRを行い、句として漢字の日を作ったことで、「引き」と「運」に注力した結果、国民的ブームに定着したと述べられた。

また、殿村氏は人間の持つ知識・意思・感情の3つの働きの中で「感情」に直接訴えかけることが重要であることを、彦根城のひこにゃんを例に説明された。殿村氏は彦根城そのものにスポットを当てるのではなく、ターゲットを女性に限定しマスコットキャラクターのひこにゃんにスポットを当てたことで、結果的に彦根城の来場者数増加が実現したと説明された。「感情」に働きかけて地域の文化に昇天したものは今でも消えずに定着しており、ブームから文化に昇天させることが、地域活性化のポイントであると述べられた。



基調講演を行う殿村美樹氏

また、SNSでのPRポイントとして、①心に響くストーリー②字数は10文字以内③インパクトの強いビジュアル、の3点を強調された。海外に向けたPRではSNSは有効であるが、国内に向けたPRにおいては、SNSの話題はマスメディアを通じて認知していることが現状であるため、SNSとマスメディアを掛け合わせることで効果が生まれると述べられた。

#### パネルディスカッション…

#### 「連携・交流による新たな地方 創生」相互の魅力を活かした 都市と地方の連携モデル」

後半は、宮崎大学副学長（産学・

地域連携担当)の國武久登氏をコーディネーターに、公益財団法人川崎市産業振興財団理事長の三浦淳氏、株式会社CUADRO代表取締役の三坂美代子氏、宮崎ひでじビル株式会社代表取締役の永野時彦氏、宮崎県総合政策部長の日隈俊郎氏が登壇し、都市と地方の連携の可能性について、「人と文化の交流」と「産業面の連携」の2つの観点からパネルディスカッションを行った。

三坂氏は、神戸・宮崎間がフェリーで結ばれたことで、神戸と宮崎の小学校の間に生まれた交流が現在も続いていることや、宮崎マンガが神戸のパティシエに提供されたことがきっかけで、宮崎の食材に興味を持ち始めたことから、今後も新たなコラボスィーツが誕生するのではないかと述べられた。また宮崎の食材は安心・安全のイメージがあるため、もっとPRしてほしいと話された。

永野氏は、宮崎に関心を持つ人は年々増加しており、クラフトビールがきっかけで宮崎に来る人が増えるなど、宮崎が「聖地化」しているとの見方を披露した上で、今後も宮崎を都市に向けてPRする価値は十分にあると述べられた。また、宮崎にはポテンシャルが高い食材が身近にあることから、積極的に宮崎県産であることをPRしていきたいと抱負を語られた。

三浦氏は、都市と

神戸講演が行われたことから、今後人も人と文化の交流はまだまだ伸ばすことが出来ると話された。また、宮崎の食の安心・安全性について、残留農薬検査の拠点として食の安全分析センターを活用し、積極的にPRしていきたいと述べられた。宮崎県の特徴として周囲と連携して仲良くできるところが宮崎の強みであり、今後も宮崎だからこそできる川崎・神戸との連携に積極的に取り組んでいきたいとの意欲を語られた。

総評として、國武氏は地方では人口の減少・流出が加速する中、これまでは地方と都市は対立軸で描かれることが多かったが、宮崎県、川崎市、神戸市はそれぞれが地理的に離れていることや、人口、都市環境、産業構造が異なることから、お互いに補い合いながらwin-winの関係構築、新たな産業を作り出すことは可能であり、そのためには関係人口の創出が重要であると述べられた。また、このような都市と地方による遠隔地の連携は全国でも例がなく、地方創生の新たなモデルになり得るものであり、今後のさらなる取り組みと発展に期待したいとまとめられた。

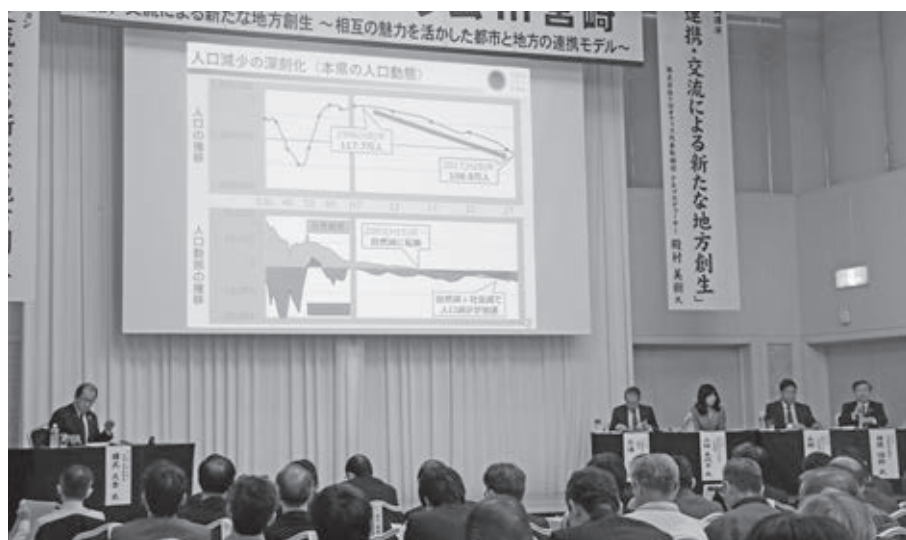
地域活性化センター

地域づくり情報課

●熊谷公汰

(秋田県由利本荘市から出向)

地方で人、モノ、情報が広い意味で循環していくことが重要であり、今後は宮崎県産の食材が都市の台所を支えるような流れもあるのではないかと分析された。また、宮崎の農業に付加価値をどのようにつけていくのかが課題であり、川崎市はITやロボット産業といった強みがあることから、今後両者をどのようにつなげ、付加価値や生産性を高めることができるかが重要であると述べられた。日隈部長は、宮崎の伝統芸能の神楽の



パネルディスカッションの様子



会場の様子

## 「移住婚活 突撃！」

# 田舎にお嫁に来ませんか!?」事業を推進

―民間の婚活コンサルタント会社を活用、

新たな形の少子化・人口減対策―



泰阜村社会福祉協議会結婚相談所  
「成婚リンクやすおか」成婚サポーター

● 松川 友哉

都市から地方への移住・交流は、人口減少社会における地域活性化策の柱として期待される。地域活性化センターでは、「移住・定住・交流推進支援事業」として、地域団体もしくは市町村等が自主的・主体的に実施する、都市住民などを受け入れる事業を支援している。

今回、平成30年度に同事業を活用した長野県泰阜村・天龍村・阿南町・下條村・飯田市・箕輪町・伊那市での取り組みを泰阜村社会福祉協議会結婚相談所「成婚リンクやすおか」成婚サポーターの松川友哉氏にご紹介いただいた。

（企画課）

### 成婚リンクやすおかについて

泰阜村は、長野県の南端に位置する人口約1650人の山村です。「成婚リンクやすおか」は平成27年度より村初の結婚相談所として活動しており、全国の山村と同様、人口減少

や未婚率の上昇が問題となっており、小さな山村特有の課題として、村内での出会いが少ないこと、また、出会いを近隣市町村の男女に求めていることから、近隣の婚活イベントなどでは、有効な出会いを多く提供す

ることが難しい状況でした。

そして、同様の課題を抱える周辺市町村の結婚相談担当者達と課題を共有し解決するために、平成27年度より「結婚相談に関わる意見交換会」を立ち上げ、課題解決に向けて始動しました。

### 民間専門家の活用

成婚リンクやすおかでは、婚活のコンサルティングを専門とする「有限責任事業組合マリッジローカルコネクト」と顧問相談員契約を結び事業を行っています。

マリッジローカルコネクトは、首都圏から長野県内へインターンで移住した男女2人による婚活コンサルタント

ント全般を行う団体です。都市部出身の女性目線でのサポートと心理カウンセリングによる心理的なアプローチでのサポートがあります。例えば、経験やノウハウを持たない自治体職員1人では対応しづらい状況においても、的確なアドバイスにより成婚に導いた実績があります。

このサポートを活用し、心理的なアプローチによる婚活イベントの企画やお見合いシステムを導入することにより成婚リンクやすおかではこの4年間で9組が成婚しました。

移住婚活事業「突撃！田舎にお嫁に来ませんか!?」

本事業は、「結婚相談に関わる意見交換会」の活動の中から、生まれたイベントで、「突撃！田舎にお嫁に来ませんか!?」、通称「突撃！」と呼んでいます。

ここ数年、長野県内の結婚相談所登録男女比は、およそ男7：女3（男8：女2）の状況が続いています。それに対し、全国最大規模の日本結婚相談所連盟（IBJ）の登録男女比は男5：女5・男4：女6の状況です。「突撃！」のアイデアは、これらの相談所登録男女比のデータから、未婚女性の多い都市部へ県内男性が出会いに行く形式の、移住婚活イベントとして考案されました。



婚活コンサルタントと市町村担当者との  
ミーティング（意見交換会）



突撃！田舎にお嫁に来ませんか!?（東京）



突撃！田舎にお嫁に来ませんか!?（名古屋）



ポスター・チラシ

これまで、平成27年度から年1回のペースで実施し、平成29年度までに3組の成婚実績が生まれ、都市部から長野県内にお嫁さんが嫁いできている状況です。

平成30年度は、地域活性化センターの助成金を活用することで、事業を大幅に拡大することが出来ました。3市町村から始まった当事業の参加自治体も、長野県南部の7市町村まで拡大し、広域連携が進んでいます。

○本事業は、全国的にも珍しい、男性が都市部へ2回続けて会いに行く「2ステージ制」の婚活イベントです。

1stステージでは、男女全員が短時間のお見合いをし、もう一度会いたい方を何人か選んでいただきます。

2ndステージ（後日、別日程）では、1stでマッチングした男女のみが、1対1でゆっくりとお見合

いをしていただきます。

2ndステージ終了後、男女に個別にヒアリングを行い、同意した男女が連絡先を交換します。

加えて、参加男性に対して、婚活コンサルタントによる事前・事後の教育サポートに力をいれており、まず、事前セミナーで当日の心構えや目的意識、服装などのアドバイスを行っています。イベント当日も婚活コンサルタントをスタッフに配置し気軽にサポートを受けられる体制で臨みます。そして、連絡先交換後の事後セミナーでは、遠距離恋愛や結婚に向けたお付き合いのアドバイスなどを、個別のケースに応じた形で実施しています。

平成30年度は、集客拡大に成功し、過去最多の参加者数を記録しました。生活の基盤を、環境の良い田舎へ移してみようと検討している方は多く、ニーズと結婚というキーワード

ドがうまく噛み合うことで予想を大きく上回る応募がありました。結果、男女併せて89人が参加、連絡先交換が45件成立となり、過去最多の成果に繋がっています。現在、4組ほどの結婚を意識した有力なお付き合いが継続中です。

当事業は、「結婚を機に生きる場所を変える」といったニーズを掘り起こせているのではないかと感じています。また、田舎への興味はあるが、「きっかけがない」「出会い方がわからない」「忙しい」といった女性に対して、「長野の男性が、都市部に会いに行く」という点がフィットしている手応えを感じています。

さらなる広域連携へ

本事業は、愛知県・静岡県・長野県・岐阜県の39自治体が加盟する連携協議会である「三遠南信地域連携ビジョン推進会議」（通称：SENA）

から注目されています。県境を越えた移住・婚活施策への期待として、次年度以降、SENAの重点プロジェクトの一つに位置付けられるのではないかとみられており、さらなる期待が寄せられてきました。

「田舎にお嫁に来ませんか!?」を全国へ

本事業は、民間にしか出来ないこと、行政にしか出来ないことがうまく組み合わされ、最大化された施策になったのではないかと自負しています。民間の得意とする魅力あるイベント構築や、未婚者に対してのきめ細やかなサポートやアドバイス。これに、行政の得意とする広報の波及力や移住へのサポートなどを組み合わせることで、これまでなかった少子化対策・移住定住施策、さらには地域活性化施策まで含んだ、三方よしの事業が実現されたのではないかと考えています。

この取り組みは、比較的小規模な地域に向いており、全国の人口減少に悩む農山村に活用しやすい内容になっています。私たちの取り組みを前例として、システムやノウハウが全国的なスタンダードになり、たくさんの方の幸せに貢献できたらと願っています。

# 民泊による地域活性化

## —福岡市と宇佐市安心院地域の事例から—

民泊は、既存の宿泊施設が不足している地域への観光客の誘致や地方の暮らし体験や住民との交流を目的とした体験型旅行の需要への対応に有効であり、地域活性化の有力な手法の1つと考えられる。

そこで、最近の民泊事情を確認するとともに、民泊制度の活用に積極的な地方公共団体や事業者の動向を調査し、民泊による地域活性化の可能性を探ることとした。

### 規制緩和と民泊新法の施行

住宅宿泊事業法（以下「民泊新法」）が施行されるまでは、民泊は原則として旅館業法に基づく許可が必要であった。しかも、その設備要件は厳格で、無許可営業をする者が問題となっていた。いわゆる「違法民泊」である。

この違法民泊を是正するため、国は旅館業法施行令の一部改正による規制緩和や民泊新法の制定を行った。一部改正令は平成30年6月15日に施行された。主な改正内容は、最低客室数の廃止や、玄関帳場等の基準の緩和等である。民泊新法も同じく平成30年6月15日に施行された。民泊新法は住宅での宿泊事業を旅館業法とは別に一定の枠内で認める新法で、宿泊日数の上限が1年間で180日とされているものの、旅館業法では認められなかった住居専用地域での営業が可能となった点が特徴である。

### 民泊の分類

我々は調査対象とする民泊施設を選定する過程で、民泊を大きく2つに分類することができると考えた。「利便性重視型」と「交流重視型」であり、それぞれの特徴は次の通り

である。

利便性重視型の民泊は、観光やイベント参加などを目的とした旅行者に対して、より効率的に旅行をしてもらうためのサービス提供に力を入れていることが特徴である。つまり、観光地やイベント会場などへのアクセスの良さをセールスポイントとしている。また、宿泊料を安価に設定することによりビジネス利用の獲得を図る例も多く見受けられる。

一方、交流重視型の民泊は、その施設に宿泊することで得られる体験や地域住民などとの交流をセールスポイントとしている。その代表例は農家民泊である。農家民泊とは、一般農家が自分の家に旅行者を宿泊させるものをいい、グリーンツーリズムの一環として発展してきた。利用者は、田舎の暮らしや農作業の体験などを通じて、地域の自然や食文化を堪能し、受け入れ農家の家族や地域住民との交流を主な目的としている。

### 利便性重視型の事例

利便性重視型の事例として、インバウンドが増加している福岡市内の民泊について、福岡市と福岡県にヒアリングを行った。

市では、新たに民泊を行う者に対



福岡市内民泊施設の浴室と洗面所



小規模宿泊施設『民泊』スタートアップガイド

し、必要な手続き等をまとめた「小規模宿泊施設『民泊』スタートアップガイド」を作成・配布している。今後市内で約5200室の客室供給が予定されており、民泊を「多様な宿泊ニーズに応える手段の1つ」として捉えていた。

県では、事業者等を集めて民泊の



夕食時の交流



さつまいも掘り

制度説明会を実施するとともに、民泊新法に基づく届出施設か否かを利用者が二次元コードで容易に判別できることとしている。さらに、福岡市中心部のホテルへの宿泊需要の集中を是正すべく、旅館や簡易宿所、近隣市のホテルの利用を推奨している。

実際に我々は民泊の仲介サイト Airbnb で旅館業法の簡易宿所としての民泊施設を予約し宿泊してみた。キャナルシティ博多から徒歩8分の距離にあり、観光に適した立地である。室内のほとんどの案内表示に英語やハングル語が併記しており、外国人利用者を意識していた。

室内は最新の家電製品が完備され、長期間の滞在でも不自由なく暮らせる設備が整っており、ビジネスホテルと同等以上に快適に過ごすことができた。

### 交流重視型の事例

大分県宇佐市安心院地域では、農業の衰退に危機感を持った農家や行政職員などが、平成8年にNPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会を発足させ、「農村民泊」を始めた。農村全体でグリーンツーリズムに取り組むという趣旨から「農村民泊」と名づけられた。

小中学生を対象にした体験教育旅行が多くを占めるが、最近ではアジアからの外国人利用者が増加している。一方、外国人観光客の間では農山村の原風景等に触れたいというニーズが高ま

っていることから、農村民泊はインバウンドの受け皿にも十分なり得る。実際に我々は高齢農家夫婦の自宅に宿泊し、箸作りやさつまいも掘り体験の後、地元食材を使用した夕食を頂いた。夕食中は、安心院地域で採れる山菜や魚の説明があった。ご主人は最近増加した外国人利用者と会話をするため韓国語を勉強しておられた。地域住民との交流や地域の食や文化に触れることで、心に残る体験となった。受け入れてくれた農家夫婦が、宿泊客との交流により刺激を受け、自分たちの暮らし地域の魅力を再認識できるとおっしゃっていたのが印象深かった。

### まとめ

本調査では民泊を「利便性重視型」と「交流重視型」の2つに分類したが、その共通点は、インバウンドを意識

した運営がなされている点であり、民泊は不足している日本の宿泊施設数を補うための制度であると考えていた。しかし、どちらの類型においても、宿泊施設の供給不足を考慮したビジネスが展開されて

いるという印象は受けなかった。

次に相違点であるが、利便性重視型の利用者は、主に民泊施設周辺で開催される各種イベントへの参加や観光の拠点としての役割を期待しているため、立地や価格を重視している。一方、交流重視型の利用者は、地域住民との交流を目的としているため、その町、その場所、その人を目指して宿泊するため、立地や価格の競争にはなりにくい。

それでは、どちらの類型が地域活性化により寄与するのだろうか。我々の結論は「交流重視型」の民泊である。地域を活性化するためには、その地域でしか味わうことができない魅力や体験を提供することが必要不可欠である。駅から近い、価格が安いなどの利便性や機能的価値を追求するのではなく、価格競争に巻き込まれることのない特性、すなわち、自分たちの地域における文化や歴史、食等の魅力をセールスポイントにして差別化を図るべきである。そして、この特性を発信し続けることにより、その地域の関係人口が創出されるとともに、住民の地域への誇りやいきがい創出にもつながっていくと考える。

### 地域活性化センター

#### 国内調査グループ

田野祥行（埼玉県から出向）  
山根絵美（鳥取県から出向）  
山口拓志（米子市から出向）

# 地域の課題を木育で解決する

## ―第6回木育サミットin徳島に参加して―

東京都新宿区四谷にある「東京おもちゃ美術館」を運営するNPO法人芸術と遊び創造協会と一般財団法人地域活性化センターは、協力して「木育」活動を日本全国に広げていくとともに、人材育成の面でも連携・協力するため、2016年4月に連携協定を締結した。そこで、今回は2019年2月16日に徳島県徳島市で開催されたNPO法人芸術と遊び創造協会主催の「木育サミットin徳島」を紹介する。

### 木育サミットとは

木育サミットは、木に親しみ、木を活かし、木と共に生きていく「木育」の活動を多くの人に知ってもらうため、また、日本各地で木育に取り組む方たちが一堂に会しネットワークを強化していくために毎年開催されている。今回で第6回となる木育サミットは、初めて四国で開催された。テーマは「地域の課題を木育で解決する」とし、四国内に留まらず、全国から木育に取り組む約

600人の方々が参加した。

### ウッドスタート宣言・調印式

今回のサミット開催と同時に、徳島県と三好市がウッドスタート宣言調印式を行った。立会人として林野庁長官牧元幸司氏と、既に宣言をしている徳島県那賀町長坂口博文氏を迎え、徳島県知事飯泉嘉門氏、三好市長黒川征一氏、東京おもちゃ美術館館長多田千尋氏による調印式が執り行われ、新たに2つの自治体が今後の木育推進を約束し、ウッドスタート宣言を行った。

### 基調講演

#### 「地域の木材利用と木育」

林野庁長官の牧元氏による基調講演「地域の木材利用と木育」では、戦後から現在までの森林・林業の状況や制度の整備のあゆみ、木材需要

の現状と展望、そして、木づかい運動と木育について、今後の林業や森林に対する国民の理解と活用がいかに重要であるかについての話があった。

### 基調シンポジウム

#### 「地域課題解決のための木育」

(株)Tree to Green代表

取締役青野裕介氏を座長とし、木育推進による今後の地域活性化について、3人のゲストと共に基調シンポジウムが行われた。月刊ソトコト編集長指出一正氏は、「観光以上、移住未満の第3の人口である関係人口」がまちにもたらす幸せな変化、特に林業を主産業とした中山間地域の事例について語った。活性化センターの椎川忍理事長は、森林立国再生、そして地方創生には子どもたちへの教育が重要であり、その中でも「木育」は非常に意義深い取り組みであると語った。東京おもちゃ美術館館長多田氏は、地域課題を解決しながら地域全体をデザインする力を持つ「姉妹おもちゃ美術館と木育の可能性」について話した。3人のゲストの主張は、地域課題×木育は、

地域活性化の重要な礎となるという点で一致した。

### 5つの分科会

午後の部は、①子育て支援の現場で木を活かす―その先にあるものは？―②持続可能な地球の未来を担うSDGs／高校生が木育視点から向き合う③木育×〇〇―徳島の木育プログラム―④森林環境税の先にある木育の意義⑤ウッドスタート宣言自治体企業サミット、の5つのテーマで分科会が展開された。これら共通の課題や最新のキーワードを基本にした分科会には多くの方が参加し、木育だけに留まらない深い議論と学びを生む時間となった。

### クロージングセレモニー

最後に、木育サミットin徳島実行委員である鳴門教育大学副学長の尾崎士郎氏が中心となって立案した「とくしま木育共同宣言」が発表され、木育サミットは幕を閉じた。宣言には、「木育活動を通して環境保全に努め持続可能な社会の実現を目指す」「産学官民が連携して次世代の優れた人材を育てることを目指す」などが盛り込まれた。

### 地域活性化センター

#### クリエイティブ事業室

#### 元副参事 ● 中村 咲輝

(青森県六ヶ所村より派遣)



基調シンポジウムの様子



ウッドスタート宣言調印式の様子



## 地域巻き込み型

## 「木育推進」の進め方



株式会社スリーワイ・おもちゃ  
コンサルタントマスター

● 八木 雄二

### 国指定史跡がある国見町

国見町は、福島県の最北端に位置し、東京都心から東北新幹線で2時間ちよつと、宮城県仙台市から1時間以内、さらに、東日本主要道路である国道4号線が横断するなど、交通の便に恵まれ、コシヒカリと桃づくりが盛んな農業を主産業とした町です。国定指定史跡である阿津賀志防塁など多くの史跡が点在し、豊かな自然と義経ゆかりの町として知られています。

### 地元の愛情とぬくもりを 直接伝えるおもちゃ

そんな国見町は、平成28年3月5日にNPO法人芸術と遊び創造協会／東京おもちゃ美術館が取り組んでいる「ウッドスタート宣言」を行い、5つの事業に取り組むことにしました。その事業の中に、新生児への誕生祝い品贈呈事業があり、今年度で4度目の贈呈式になります。

初年度はプロのデザイナーにデザインを依頼して、プロの木工職人に制作してもらい「フクロウのつみき」をプレゼントしました。平成28、29年度は、町民の方々がデザインを考案し、プロの木工職人が制作した「あつかしコロコロ」というおもちゃをプレゼントしました。「あつかしコロコロ」は、国見町のシンボルである阿津賀志山と特産品である桃などをモチーフにデザインされました。

平成30年度はデザインから製作まで、すべての工程を町民の皆様が行いました。長く親しまれるおもちゃを贈りたいという想いから、国見町内外で人気のご当地バーガー「国見バーガー」をモチーフにデザインされました。

デザイン及び制作において、私を含めた2人の「おもちゃコンサルタント」が関与する木工技術組合の4人が講師となり、制作指導を行いました。完成までいろいろと苦労はありましたが、制作された町民の皆様の頑

張りもあり、たった半年で、赤ちゃんに贈呈することができました。地元の愛情とぬくもりを木のおもちゃを通して直接伝えたいという想いが実を結んだのだと思います。また、「ウッドスタート」宣言以降、東京おもちゃ美術館と協力をしながら、「木育キャラバン」「木育インストラクター養成講座」などを開催、さらには町の教育委員会が率先して「暮らしの中の木づかい展」を行うなど、木に関わる事業を、町長をはじめとして、議会や各委員会が精力的に行なったことも大きな理由だと思えます。

### 「道の駅国見あつかしの郷」

国見町の木育事業は、誕生祝い品だけではなくありません。平成29年5月にオープンしました「道の駅国見あつかしの郷」は、地元産材をふんだんに使用し、木の温もりが感じられる施設となっています。この道の

駅には、東京おもちゃ美術館監修の元、木の遊具やおもちゃで遊べる施設、こども木育広場「つながる〜む」があります。この空間は子どもと一緒にママとパパが集い、子育てをみんなで共有しながら、ネットワーキングをするなど、地域の子育てサロンとしての役割も担っています。オープンして3年で5万5千人以上が来場者するなど、大人気です。東北地方の行政で、ここまで大きな規模の木育広場は私の知る限りでは他にはないと思います。

今後、国見町では、さらに地域の方々を巻き込みながら、国見町らしい木育のあり方を考え、その動きに対し、私も出来る限り協力して参りたいと思います。「おもちゃコンサルタントマスター」「おもちゃコンサルタント」が全国の自治体と協力して、おもちゃを通して、生涯木育の輪を広げて行くことを期待しています。



新生児の誕生祝い品「くにみトイバーガー」



町民が木のおもちゃを制作



こども木育広場「つながる〜む」



和歌山県有田川町長

中山 正隆

## 「暮らして楽しい」を実現できる 持続可能なまちづくり！

有田川町は、和歌山県のほぼ中央部に位置する、人口約2万7000人の町です。本町では、全国的なブランドの有田みかんやぶどう山椒などが生産されています。歴史的な流域の発展は、空海が高野山を開創した時代に川沿いの高野有田街道が開かれたことをはじまりとし、農林業を中心として栄えた地域です。

農林業において、雇用の場の創出や若者の定住及び農林家の所得の向上に成果を上げてきていますが、若年層を中心とする人口の流出や高齢化は依然として進行しています。これを食い止めるため、これまで「有田川町らしさ」を大切に、さまざまな取り組みを行ってきました。10年前から取り組んでいるのが、「絵本」を活用した絵本まちづくり総合推進事業です。絵本という資源を子育てだけではなく、まちづくりや観光などにも活用することで、有田川町を彩る魅力の一つとし、結果として「暮らして楽しいまち」「子育てがしやすいまち」が実現すると考えています。

地域交流センターALECでは、図書サービスの向上はもちろん、幼児のころから絵本に触れさせるブックスタート事業や、新たな絵本作家の発掘「絵本コンクール」の開催や絵本作家と連携したイベント、近年ではカフェや拠点施設等いつでも絵本が借りられる「まちかど絵本箱事業」など、図書館という枠を超えて、絵本と人との交流を生み出し、豊かな心を持った人に育つよう教育環境を整えています。

そして、平成27年にはアメリカ合衆国オレゴン州ポートランド市のまちづくりを参考に、これから担う若者とこれから減少する女性を中心に、住民主体のまちづくりに取り組んできました。

ポートランド市は、全米で最も住みやすい街、最も環境にやさしい街と言われています。その背景には、深刻化する公害問題に住民自らが主体となって住みよい町を作ろうと立ち上がった経緯があります。その住民主体の

まちづくりの手法を取り入れるべく、ポートランド市と連携して事業を進めてきました。その成果の一つが、廃所となった保育所を行政と住民とが協働して行うリノベーションです。そこで、民間が起業をするための場を提供し、利益を生み続けるための利活用を行い、持続可能な運営の仕組みづくりをし、地域の活性化に繋がります。

産業に関する事業では、特産品である「緑のダイヤ」ぶどう山椒ブランド化推進事業に取り組んでいます。

有田川町が収穫量全国一を誇る「ぶどう山椒」は、有田川町清水地域が発祥とされ、その歴史は古く、およそ170年前から栽培されており、現在に至るまで栽培が続けられています。近年はヨーロッパを中心に商品化されるなど、そのブームに火が付き始めました。こうした経緯から、国内外での知名度を向上させるとともに、地元の高等学校や事業者と連携し、仕事づくり・地域づくりを目指しています。

そして、当町、最大の目玉事業は、「有田川エコプロジェクト」です。大きな柱は、「町営小水力発電所」と「ゴミの分別」です。平成28年に、全国でも珍しい町営の小水力発電所を設置しました。その舞台となった二川ダムでは、河川的环境を維持するために常時放水が行われています。この水圧を利用して、年間約5000万円の利益が生み出されています。今まで活用されていなかった水が持つエネルギーで発電し、得られた収益を地域に還元するプロジェクトです。また、ゴミの分別をすることで自然エネルギー設備の普及促進や生ごみ処理機購入補助といった形で地域住民に還元され、結果として循環型社会が構築されています。

有田川町は、「暮らして楽しい」を実現できる場所を目指すべく、町民の皆さんとともに、課題を共有し、共に考え、共に汗を流して、「持続可能なまちづくり！」を進めていかなければならないと考えています。

うるま市は、沖縄本島の中部東海岸に位置し、人口約12万4000人が暮らすまちです。平成17年に4市町が合併して誕生し、「さんごの島」という意味を持つ沖縄の言葉「うるま」から名付けられたうるま市は、コバルトブルーの海に囲まれた島々と美しい橋「あやはし」で結ばれる、「海」「橋」「空」が調和した風光明媚なまちとして知られています。

また、東洋一の長さを誇る「海中道路」や、世界遺産「勝連城跡」をはじめとする歴史的な遺跡も多く、沖縄の伝統芸能「エイサー」や「獅子舞」などが盛んで、沖縄県随一の「闘牛どころ」としても知られています。

主な特産品については、全国一の生産量を誇る「もずく」や、甘みの強い「津堅にんじん」の他にも、小菊や肉用牛など、地域特性を活かした農水産物の生産が盛んです。

自然・文化・歴史・産業など沖縄のあらゆる要素が凝縮された地域「リトル沖縄うるま市」へ、ぜひ一度、お越しいただき、その魅力を肌で感じてください。



サンゴ礁に囲まれた  
美しいまち  
うるま

#### 海中道路

勝連半島とその先の島々を結ぶ全長 4.75 キロの海中道路。うるま市を代表する観光スポットで、周辺の真っ白な砂地や美しい海では、1 年中、マリンスポーツで楽しんでいます



#### うるマルシェ

「食を通じてうるまを元気に」をコンセプトに平成 30 年 11 月にオープンした農水産業振興戦略拠点施設。地元産の新鮮な農水産物を販売。地元客を中心に、連日、賑わいを見せています



#### 勝連城跡

2000 年にユネスコの世界遺産に登録された勝連城跡。頂上からは、青く輝く太平洋が一望できる沖縄有数の景勝地です



#### 島しょ地域の集落風景

海中道路を渡った先の島しょ地域には、豊かな自然や沖縄らしい原風景が残っており、観光や移住先として人気があります



#### 津堅にんじん

津堅島の「津堅にんじん」は甘みが強く、ジュースやデザートなどの加工品にも活用されています



#### 自然を活かした観光体験

市観光物産協会では、自然や伝統文化を活かした様々な体験プランを提供。多くの観光客を楽しませています



#### 現代版組踊「肝高の阿麻和利」

地域の中高生による、勝連城主である「阿麻和利」の半生を演じる現代版組踊。全国や海外公演も実施しています



#### うるま市まちキャラ 「うるうら」

沖縄県うるま市うるうら

## 地域づくり 5 月号

2019 年 5 月 1 日発行 編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター

東京都中央区日本橋 2-3-4 日本橋ブラザビル 13 階 電話 03-5202-6131 (代)

<https://www.jcrd.jp/> 印刷・製本／株式会社太平印刷社

法律で許可された場合以外に本誌からの無断転載を禁止します

落丁・乱丁はお取り替えします。編集室 (03-5202-6139) E-mail: hensyuu6139@jcrd.jp まで、ご連絡下さい。



地域活性化  
センターからの  
メールマガジン  
登録はこちら

# 宝くじは、 みなさまの豊かな暮らしに 役立っています。

消防団の方々と  
防災学習!



一輪車に乗れるようになりました~!



桜の若木が  
こんなに育ったよ♪



みんなで仲良く  
読み聞かせ!



街を華やかに  
彩ります♪



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、  
少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちで、  
みなさまの暮らしに役立っています。



一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や  
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。



一般財団法人

日本宝くじ協会

<http://jla-takarakuji.or.jp/>



# 平成30年度 ふるさとイベント大賞

## 地域づくり 特集編

### 目次

- 平成30年度ふるさとづくり大賞・第23回ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞表彰式の開催
  - 1 第23回ふるさとイベント大賞表彰式
- 大賞(内閣総理大臣賞) …… 2 与那原大綱曳まつり【沖縄県与那原町】
- 最優秀賞(総務大臣表彰) …… 4 乙亥大相撲【愛媛県西予市】
- 優秀賞 …… 6 撮りフェス in 室蘭 2017【北海道室蘭市】      8 2018 小出雪まつり【新潟県魚沼市】
  - 10 きくち夏まつり 菊池白龍【熊本県菊池市】
- ふるさとキラリ賞 …… 12 ザ! 雑巾ダッシュ!! 2017 in みつえ【奈良県御杖村】      14 轡の津 八朔の馬出し【広島県福山市】
- 選考委員特別賞 …… 16 じないまち 四季物語【大阪府富田林市】
- 次点(12団体)
 

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>18 Reborn-Art Festival【宮城県石巻市】</li> <li>20 J: COM×寒川 びっちょり祭【神奈川県寒川町】</li> <li>22 丸山千枚田の虫おくり【三重県熊野市】</li> <li>24 29ロードウォーク【鳥取県鳥取市、若桜町、八頭町】</li> <li>26 あしや砂像展2017【福岡県遠賀郡芦屋町】</li> <li>28 苓北じゃっと祭「天草れいほくペーロン大会」【熊本県天草郡苓北町】</li> <li>29 白鬚田原神社のどぶろく祭り【大分県杵築市】</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>19 喜多方発21世紀シアター 2017【福島県喜多方市】</li> <li>21 三國湊 帯のまち流し【福井県坂井市】</li> <li>23 赤れんがマーケス in 舞鶴2018【京都府舞鶴市】</li> <li>25 石見神楽と共奏、オペラ「石見銀山」の制作・上演【島根県大田市】</li> <li>27 FUKUCHI FIND FESTIVAL 福智スイーツ大茶会【福岡県福智町】</li> </ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
- 30 ふるさとイベント大賞のお知らせ
- 31 都道府県漫遊【京都府】      32 地域トピックス／大阪府／田中友梨 モチベーションマネジメントで職場環境を醸成

2019年5月1日発行 編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター ©2019 jcrd.jp

東京都中央区日本橋 2-3-4 日本橋プラザビル 13 階 電話 03-5202-6131 (代) <https://www.jcrd.jp/> 印刷・製本／株式会社太平印刷社

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです



# 平成 30 年度ふるさとづくり大賞・第 23 回ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞表彰式の開催

平成 31 年 3 月 13 日（水）に総理大臣官邸にて、「平成 30 年度ふるさとづくり大賞」及び「第 23 回ふるさとイベント大賞」の内閣総理大臣賞表彰式が開催されました。

表彰式では、安倍晋三内閣総理大臣から受賞者の豊重哲郎氏（ふるさとづくり大賞・鹿児島県鹿屋市）、与那原大綱曳まつり運営委員会（ふるさとイベント大賞・沖縄県与那原町）に表彰状と記念楯が授与されました。安倍首相は、受賞者の地域づくり活動の業績を讃えた上で、「皆様の活動は、ふるさとを愛する気持ちにあふれた、素晴らしいものと感じました。ふるさとを愛する気持ちを育み、誇りあるふるさとをつくる、この精神こそ、魅力ある地方を創生する力の源泉です。政府としては、引き続き、ふるさとづくりを力強く後押ししてまいりますので、皆様方にも、なお一層御活躍いただきますことを御期待申し上げまして、お祝いの御挨拶とさせていただきます。」と述べられました。



平成 30 年度ふるさとづくり大賞  
豊重哲郎氏  
(鹿児島県鹿屋市)



第 23 回ふるさとイベント大賞  
与那原大綱曳まつり運営委員会  
(沖縄県与那原町)



豊重哲郎氏への表彰状授与



与那原大綱曳まつり運営委員会への表彰状授与

# 第23回ふるさとイベント大賞表彰式・平成30年度地方創生フォーラム in 東京を開催

(一財)地域活性化センターでは、平成31年3月1日(金)にベルサール飯田橋ファーストにて「ふるさとイベント大賞」と「地方創生フォーラム」を開催し、多くの皆様にご参加いただきました。



受賞者の皆さん



総評を述べる北川委員長と角田委員



表彰式の様子

## ■プログラム

13:00～ 第23回ふるさとイベント大賞 表彰式

14:10～ 平成30年度地方創生フォーラム in 東京「歴史・文化資源を活かした都市デザイン」

【基調講演】西村 幸夫 氏(神戸芸術工科大学教授、東京大学名誉教授)

【パネルディスカッション】保井 美樹 氏(法政大学現代福祉学部教授)

宮城 俊作 氏(宗教法人平等院代表役員、放送大学教授)

青木 悟 氏(長野県下諏訪町長)

中村 和宏 氏(金沢市都市整備局定住促進部長)

## 選考委員長の総評

北川 フラム氏 株式会社アートフロントギャラリー代表取締役/アートディレクター



©Mao Yamamoto

今回の受賞イベントについては、それぞれの地域で、皆さん熱意をもっていろいろ工夫して、その地域を出そうとしていることに感銘を受けました。

さらにその特色は歴史なり記憶なりに由来しているものが多いことです。

また、うまくいっているイベントはその場所の特徴に的確に合わせたものでした。

今、地域が持つ土地の特質、歴史、生活、食事を組み合わせ、なお参加度が高いものによって誇りをもつようなイベントが力をもってきていて、嬉しいことです。



## 評価のポイント

- 440年余りの歴史と伝統がある。
- 町を象徴する一大イベントで、地域の知名度アップに貢献している。
- 延べ3万人の動員があり、地域の内外を問わず多くの人を惹きつける魅力がある。
- 町民問わず誰もが、綱を「作る」「担ぐ」「曳く」ことができる参加型のまつりである。
- 園児は踊りを練習し、小学生は田植えや稲刈りをし、中学生は太鼓をたたき金鼓隊（きんこたい）や前舞い（メーモーイ）で祭りに参加する。子どもから大人まで、幅広い世代が地域と関わりを持ってまつりを開催しており、地域住民の連帯の強さを感じる。
- 親から子へ孫へ、伝統文化の継承に取り組んでいる。
- 町民には「大綱曳の日はみんなが与那原（よなばる）に帰る日」という認識があるなど、地域住民の郷土意識の高揚に繋がっている。

## 次回 開催日程

- 開催日：2019年8月3日（土）、4日（日） ■開催場所：沖縄県島尻郡与那原町御殿山青少年広場
- 問い合わせ先：
- ・団体名 与那原大綱曳まつり運営委員会
  - ・住所 〒901-1392 沖縄県島尻郡与那原町字上与那原16番地
  - ・電話番号 (098) 945-5323 ・URL <https://yonabaru.okinawa/>（与那原ナビ）

# 大賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞

### 与那原大綱曳まつり

今から440年ほど前、大切な稲が害虫に食べられ、人々は飢餓に苦しみました。「町中で鐘や太鼓を打ち鳴らし、大きな声をあげて大綱を曳きなさい」と山のおじいから言葉を授かりその通りにしたところ、害虫が全滅し豊作に。それから与那原で綱曳が行われるようになりました。以前は、町の一部だけでの綱曳でしたが、昭和58年からは、各区で作った綱を大綱曳前日に締め合わせ、東西合わせて5トン、90メートルの大綱をみんなで曳き合う現在の「与那原大綱曳まつり」の形に変化していきました。

実は、まつりの準備は、終わった直後から始まります。年が明ければ町内の5つの拝所で五穀豊穡、無病息災、子孫繁栄を祈り、旧暦4月15日には害虫を払う「アブシバレー」を行います。毎月稲の成長への感謝や大綱曳の成功を祈願し、本番1カ月前からは藁を仕入れ、本格的に綱作りがスタートします。老いも若きも男も女も町中の人々が集まって綱を作り、鉦鼓（ソグ）や太鼓のたたき方、踊り方、旗頭の持ち方などの練習をします。小学生は田植えや稲刈りをし、中学生は太鼓をたたき金鼓隊（きんこたい）や前舞い（メーモーイ）でまつりに参加します。園児たちも踊りを練習し、大綱を作る綱武士（ちなむし）たちを応援します。

大綱曳当日。安全と大綱曳の成功を祈願し、気持ちを奮い立たせる「ガーエー」で氣勢をあげます。カナチ棒を先頭に、旗頭、六尺、ドラ・ボラ、金鼓隊、支度、前舞いたちが鐘の音と掛け声で盛り上げ、その音は町中に響き渡ります。さあ、いよいよ本番です！大綱の上に14人の支度が乗って道ジュネー（行列）。まるで龍神が天に舞うがごとく荘厳な姿に皆が引き寄せられ、大綱が会場に入ると一気にヒートアップ。東西の大綱が結合した隙間にカナチ棒が入った瞬間、大綱がたたき落され綱曳がスタートです！！会場中の人々が手綱を曳き、大綱は大蛇のようにうねり、与那原大綱曳は最高潮に達します。

皆が全力を出し切った結果、勝敗はつくものの、「曳き清らさ、勝ち清らさ、負け清らさ（ひきちゅらさ、かちゅらさ、まけちゅらさ）」＝「勝っても負けても和気あいあい」という言葉があるのも、与那原大綱曳の美しさです。町民だけでなく誰しもが、綱を「作る」「担ぐ」「曳く」ができる参加型のまつりであることも、与那原大綱曳まつりの醍醐味の一つです。

#### 主催者メッセージ



「サー！サー！サー！サー！！」の掛け声と共に「カンカンカン」と鳴り響く鉦鼓（ソグ）の音。風にのせて踊る旗頭に華やかな女性たちの舞。大綱曳本番前に氣勢をあげるガーエーと、支度（したく）が大綱の上に乗って練り歩く昇龍のような荘厳さ。カナチ棒が入った瞬間に大綱がたたき落されるド迫力を、ぜひ体感してください。

与那原町役場 観光商工課  
地域おこし協力隊

相羽 としえさん



沖縄県  
与那原町

#### 開催DATA

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 自治体名  | 沖縄県与那原町                                        |
| 自治体人口 | 19,805人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 与那原大綱曳まつり運営委員会                                 |
| 開催回数  | 36回（2018年）                                     |
| 開催日   | 旧暦6月26日直後の週末土日（基本）                             |
| 開催場所  | 与那原町御殿山（うどうんやま）<br>青少年広場                       |
| 観客数   | 延べ30,000人                                      |



## 評価のポイント

- 長い間継続して開催されており、地方の祭として定着している。
- 相撲の町としての認識が広まっており、相撲が地域振興の下地となっている。
- 一番の見どころは、実業団や大学生などのアマチュアトップ選手とプロの若手力士が激突するプロ・アマ対戦で、特徴がある。
- 地区の誇りをかけた住民対抗戦は地域の絆を深めている。
- 当日運営はもちろん、事前準備など地域住民が積極的に参加しており、イベント開催にあたり地域住民の関わりが深い。
- 戦時中でさえ一度も絶やすことなく続けてきた乙亥大相撲への住民の想いは強く、7月の豪雨被害の復興の励みにもなっている。

## 次回 開催日程

■開催日：2019年11月26日（予定）

■開催場所：野村公会堂

■問い合わせ先：

・団体名 西予市観光協会野村支部

・住所 〒797-1212

・電話番号 0894-72-1115 ・URL n-sanken@city.seiyo.ehime.jp

最優秀賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

# 乙亥大相撲

嘉永5年(1852年)6月25日に、町内の4地区が全焼、総罹災戸数100戸、棟数260棟という大火災が起きました。これらの火災が二度と起こらないように火除けの神として愛宕山に愛宕神社を祭祀し、以後100年にわたり旧暦10月の乙亥の日に三十三結の願相撲を奉納し、無火災を祈願したのが始まりです。祈願相撲は1952年に終わりましたが、地方祭として定着してきたことから、野村町三大まつりの一つとして盛大に継続されています。

相撲は、全国の一般実業団や大学生などのアマチュアトップ選手と、大相撲の若手有望力士が激突する全国で唯一のプロアマ対戦が一番の見所となっており、激しい取組が繰り広げられます。また幕内力士による稚児の土俵入りや、地元の小・中・一般青年の対抗戦、乙亥太鼓演奏、初っ切りなども行われ、2日間の乙亥祭りは町が相撲一色で賑わいます。

過日の2018年7月豪雨災害では、会場となる乙亥会館に2階部分まで濁流が流れ込み、壊滅的な被害を受けました。しかしながら、戦時中でさえ一度も絶やすことなく続けてきた乙亥大相撲への住民の想いは強く、167回目となる乙亥大相撲も会場を変更して開催しました。これまでの会場は使用できませんので、代替場所に一から土俵を作ることとなり、地域の皆さんが、乙亥大相撲開催のため、また復興への願いを込めて4日間かけて作った珠玉の土俵が完成し、無事に開催することが出来ました。

また、2017えひめ国体では、約600人の相撲競技選手団を地域全体で民泊して受け入れました。豪雨災害直後には、その時の民泊先を案じて日本全国から多くの国体選手が駆けつけて下さり、復旧活動にご協力いただきました。今回の乙亥大相撲では、その選手たちが土俵上で大熱戦を繰り広げ、住民の皆さんは勇気づけられ、絆も一層深まりました。

これからも相撲の町として、乙亥大相撲が復興に向けての一助となるよう努めてまいります。

## 主催者メッセージ

今回の乙亥大相撲の開催については、避難所や被災地を回って被災された方がどのようなご意見をお持ちか伺って参りました。ほとんどの方から「例年通りやってほしい」という声を聞き、また辛い立場の被災者から「運営は大変と思うが頑張ってくれ」と反対に励ましの言葉もかけてくださいました。改めて地域になくてはならないイベントだと実感しました。

西予市観光協会野村支部  
支部長

米田 直さん



## 開催DATA

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 自治体名  | 愛媛県西予市                                         |
| 自治体人口 | 38,019人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 西予市観光協会野村支部、西予市、西予市教育委員会                       |
| 開催回数  | 167回                                           |
| 開催日   | 11月下旬                                          |
| 開催場所  | 乙亥会館<br>(~ 2020.3 豪雨災害復旧工事中)                   |
| 観客数   | 約6,000人                                        |



## 評価のポイント

- 北の大自然が作り出した自然景観と工場夜景などの産業景観を併せ持ち、それらが共存・融合している室蘭の魅力を地域資源として活用したイベント。
- 通常のフォトコンテストとは異なり、2日間・24時間という制限時間の中で撮影から作品提出までを行うなど、独創性のある企画内容となっている。
- 参加者の作品を通じて地域の魅力を発信している。
- 普段は立ち入ることができない特別な撮影スポットを行政と民間企業の協力を得ながら開放するなど、官民が一体となって魅力を増すための創意工夫を図っている。
- 参加者が撮影した写真はイベント翌日から写真展で展示され、市の知名度向上に繋がっている。また、地域住民自身も気づいていなかった町の景観の魅力に改めて触れることで、郷土意識の高揚に貢献している。

## 次回 開催日程

■開催日：2019年7月6日（土）～7月7日（日）〈予定〉 ■開催場所：北海道室蘭市全域  
 ■問い合わせ先：・団体名 撮りフェスin室蘭実行委員会  
 ・住所 〒051-0022 北海道室蘭市海岸町1-5-1 室蘭観光協会内  
 ・電話番号 0143-23-0102 ・URL <http://tori-fes.com/>

優秀賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# 撮りフェス in 室蘭 2017

室蘭は、アイヌ語で「小さな・下り路」という意味の語源の通り、小さいながらも起伏に富んだエリアです。そこに北の大自然が作り出した自然景観と工場夜景などの産業景観を併せ持ち、それらが奇跡的に共存・融合しています。少し歩くだけで目の前の景色がめまぐるしく変わる、まさに被写体としての魅力に溢れた町です。撮りフェス in 室蘭は、室蘭の観光資源の原点でもある「景観」の価値に着目し、室蘭の町を24時間という制限時間内に自由に散策しながら、町が持つ被写体としての魅力を写真に収めていく滞在型フォトコンテストです。通常のフォトコンテストとは違い、2日間・24時間という制限時間の間に撮影から作品提出までを行います。撮影場所は室蘭市内全域で、普段は立ち入ることのできない特別な撮影スポットを行政と民間企業等の協力を得ながら開放しています。またプロの写真家と巡る撮影ツアーや作品講評とトークも開催し、「写真」をきっかけとして地域が盛り上がるフォトコンテストです。

### 主催者メッセージ

室蘭は行くたびに新鮮な経験がある「フォトジェニック」なまちです。撮影する場所やアングル、時間や季節でも、その時々で様々な表情を見せてくれます。撮りフェス in 室蘭は、まだ回数が少ないイベントながら、年を重ねるごとに参加者も増え、毎回参加して下さる参加者もいます。あなたも「世界がまだ知らない室蘭」を発見しに来ませんか。

撮りフェスin室蘭実行委員会  
(所属：株式会社EPOCH)  
実行委員長

川島 佳峻さん



### 開催DATA

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 自治体名  | 北海道室蘭市                                         |
| 自治体人口 | 84,405人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 撮りフェス in 室蘭実行委員会                               |
| 開催回数  | 2回                                             |
| 開催日   | 2017年9月16日(土)～9月17日(日)                         |
| 開催場所  | 北海道室蘭市全域                                       |
| 観客数   | 参加者数272人<br>関係住民 約100人                         |



## 評価のポイント

- マイナスのイメージが大きい雪を「楽しみ」に変えようという発想から始まったイベント。
- 雪合戦発祥の地を掲げて開催される雪合戦はリピーターも多く、毎年人気が高い。外国人チームの参加もある。
- 雪合戦前日は参加チームに郷土料理や地酒が振る舞われ、参加者や地元の人が交流を図っている。
- 遊び心を持って競技を行うことを心得としており、雪合戦当日は、豪雪地域特有の民具を身につけ、様々なコスチュームやパフォーマンスでイベントを盛り上げている。
- 大会の景品は、魚沼産コシヒカリや地酒など魚沼ならではのものを用意しており、会場では魚沼産コシヒカリが無料で提供される。市民も町内会単位でかまくらを作り、来場者に楽しんでもらうなど、魚沼の文化の発信に繋がっている。

## 次回 開催日程

- 開催日：2020年2月8日（土）、9日（日）予定
- 開催場所：響きの森公園雪のコロシウムほか
- 問い合わせ先：
  - ・団体名 小出雪まつり実行委員会
  - ・住所 〒946-0011 新潟県魚沼市小出島1209番地11 小出商工会内
  - ・電話番号 025-792-2124 ・URL <http://seinenbu.uonumakoide.com/yuki/>

優秀賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# 2018 小出雪まつり

毎年2月に2日間にわたり開催され、小出雪まつり実行委員会を中心に、市民の力で地域活性化を目指しています。特に小出国際雪合戦（2019年から魚沼国際雪合戦に名称変更）は、雪合戦発祥の地を掲げ、これまで31回開催しています。大会前日は、商店街を雪灯籠でライトアップして参加チームをお出迎えします。前夜祭交流会では、郷土料理や地酒を振る舞い、参加者同士や市民との交流の場となっています。大会当日は、豪雪地域特有の道具「こしき」などを使って、雪合戦を楽しみます。この雪合戦大会は遊び心を持って競技を行うことを心得としていて、選手達はコスチュームやパフォーマンスで会場を盛り上げています。大会の景品は、魚沼産コシヒカリや地酒、地元温泉の宿泊券など魚沼ならではの品ばかりで、会場内では特産の魚沼産コシヒカリが食べ放題です。市民も町内会単位でかまくらを作り、来場者に振る舞うなど、訪れた方と市民が一体となって盛り上がるイベントです。

### 主催者メッセージ

魚沼市は日本有数の豪雪地帯ですが、小出雪まつりは訪れた方と市民が一緒になってその雪を楽しむイベントです。雪を地域資源として活用しようと平成元年から小出国際雪合戦を始めました。リピーターも多く、冬季以外でも選手と役員の枠を超えて仲良くさせていただいています。一緒に盛り上げていただける皆様のお越しをお待ちしています。

小出雪まつり実行委員会／  
小出商工会青年部 副部長

関 和雄さん



### 開催DATA

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 自治体名  | 新潟県魚沼市                                         |
| 自治体人口 | 36,368人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 小出雪まつり実行委員会                                    |
| 開催回数  | 31回（2019年時点）                                   |
| 開催日   | 毎年2月中旬                                         |
| 開催場所  | 響きの森公園雪のコロシウムほか                                |
| 観客数   | 16,000人                                        |



熊本県  
菊池市

## 評価のポイント

- 市民広場前の県道を封鎖し、200メートルの県道区間を2体の雄雌の白龍が巨体を折り曲げて蛇行し、すれすれで交錯するパフォーマンスは迫力満点で多くの観客を魅了する。
- 雄龍・雌龍は大人、若龍は中高生、子白龍は小学生が担ぎ上げるなど、幅広い世代の担ぎ手により、菊池白龍は未来に継承されている。
- ステージイベントなどを通して、多くの地域住民が様々な形で祭りに参加している。
- 人気アーティストのライブや首都圏のイベントにおいて数万人の観客の前で演舞を披露しており、菊池市の知名度向上につながっている。
- 地域や学校のイベントに積極的に出演し、地域への密着度が高い。

## 次回 開催日程

■開催日：2019年8月10日（土） ■開催場所：菊池市民広場一帯

■問い合わせ先：

- ・団体名 菊池市役所 商工観光課
- ・住所 〒861-1331 熊本県菊池市隈府888番地
- ・電話番号 0968-25-7223 ・URL <http://www.city.kikuchi.lg.jp/>

優秀賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# きくち夏まつり 菊池白龍

きくち夏まつりの象徴である菊池白龍は、1997年に菊池白龍伝説を再現して制作されました。巨大白龍の雄龍と雌龍は1体、全長50メートル、総重量500キロにもなる巨大白龍です。この白龍のほかに、2005年、子ども達にも担がせたい、思い出を作らせたいとの思いから子白龍を作成し、2018年には、担ぎ手の裾野を広げることを目的に若龍が制作され、雄龍・雌龍は大人、若龍は中高生、子白龍は小学生と若い世代の担ぎ手により、菊池白龍は未来に継承されています。まつりは、4体の龍が地元商店街を練り歩き、クライマックスには、会場前の道路を封鎖して雄龍・雌龍2体による蛇行演舞は迫力満点です。最近では、県外からの観客や担ぎ手が増え、菊池の夏を代表する一大行事となっています。龍の中でも白龍は、幸せを呼ぶとされる吉兆龍であり菊池市が豊かになる予兆として、事あるごとに現れ菊池市を幸せへと導いてくれる守護神として市民に愛されています。

### 主催者メッセージ



「きくち夏まつり」は菊池の白龍伝説を再現して作成した白龍4体による練り歩き・演舞やステージイベントが行われ、菊池の夏を代表するイベントです。迫力満点の白龍と勇ましい担ぎ手達に会いにぜひ菊池市へお越しください。

菊池市祭実行委員会  
会長（菊池市長）

江頭 実さん



### 開催DATA

|                      |                |
|----------------------|----------------|
| 自治体名                 | 熊本県菊池市         |
| 自治体人口                | 49,073人        |
| ※2018.12末現在の住民基本台帳人口 |                |
| 主催団体                 | 菊池市祭実行委員会      |
| 開催回数                 | 24回            |
| 開催日                  | 毎年8月7日に一番近い土曜日 |
| 開催場所                 | 菊池市民広場一帯       |
| 観客数                  | 30,000人        |



## 評価のポイント

- 昔ながらの姿が残る旧校舎を地域資源として活用し、シンプルな企画ながらも独創性のあるイベント。
- 地域のコミュニティを中心に人々が積極的に参加し、郷土愛の醸成に繋がっている。
- テレビや新聞に取り上げられ知名度の貢献に繋がっている。

## 次回 開催日程

- 開催日：2019年10月14日（予定）
- 開催場所：みつえ体験交流館
- 問い合わせ先：
  - ・団体名 御杖村役場
  - ・住所 〒633-1302 奈良県宇陀郡御杖村大字菅野368
  - ・電話番号 0745-95-2001 ・MAIL thezoukindash@vill.mitsue.nara.jp

ふるさと  
キラリ賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# ザ! 雑巾ダッシュ!! 2017 in みつえ

「みつえ体験交流館」は、旧小学校をリノベーションした体験型交流施設で、竹細工や陶芸、コーヒー焙煎などを体験できます。

昔ながらの姿をそのまま残す同施設は、101メートルの長い廊下が自慢。本イベントでは、その長い廊下を活用し、雑巾がけ大会を実施します。目指すのは、世界記録認定に必要と言われている「16秒68」の更新。

大会は100メートルの他にも、子どもや女性も気軽に参加できる50メートルや、2人1組で走るダブルス、4人1組のチームで競うリレーなど、様々な種目を実施。子どもたちには「珍しい木造小学校の雰囲気を感じながら」、大人たちには「子どもの頃を思い出しながら」楽しく走っていただけるイベントです。

各種目優勝者には、「100合のお米」と、御杖村産の木材を使用した「木彫りのメダル」を贈呈。

また、会場では「御杖うまいもん市」を同時開催。御杖村の特産品やグルメなど、村自慢の味で参加者をもてなします。

### 主催者メッセージ

全国的にも珍しい101メートルの廊下を使った雑巾がけイベント「ザ! 雑巾ダッシュ」。

100メートルのスタートラインに立つと、あまりの長さ不安になる選手もまわりの声援に後押しされゴール。家族や友達と懐かしい木造校舎での雑巾がけを会場全員で楽しめるイベントになりました。笑顔あふれるこのイベントに廊下をびかびかに磨いて皆様のご参加をお待ちしております。



御杖村村長  
伊藤 収宜さん



### 開催DATA

|       |                                               |
|-------|-----------------------------------------------|
| 自治体名  | 奈良県御杖村                                        |
| 自治体人口 | 1,690人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 御杖村                                           |
| 開催回数  | 2回                                            |
| 開催日   | 2017年10月9日（体育の日）                              |
| 開催場所  | みつえ体験交流館                                      |
| 観客数   | 約300人（参加者148人）                                |



## 評価のポイント

- 江戸時代から昭和初期まで続いていた伝統行事を17年前に地元の有志が復活させたもので、伝統文化の継承に繋がっている。
- 低予算で開催しながらも、地域のコミュニティを中心に人々が集まり交流に繋がっている。
- 60名もの子どもたちが参加し、中学生だけに任せて馬を引かせるなどの特色があり、子どもたちが地元に関心と誇りを持つ機会となっている。

## 次回 開催日程

■開催日：2019年9月の第1日曜日

■開催場所：福山市鞆町

■問い合わせ先：

・団体名 鞆の津 八朔の馬出し実行委員会

・住所 〒720-0202 広島県福山市鞆町後地536番地1

・電話番号 084-982-1121 ・URL <http://www.tomo-rekimin.org/index.php>

ふるさと  
キラリ賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# 鞆の津 八朔の馬出し

八朔とは旧暦の8月1日のことを言い、この日には物品を贈答して日ごろの感謝の気持ちを伝えたり、農家では米の豊作を祝う行事や子どもの成長を祝う行事を行ったりと地域によってさまざまな特色があります。

潮待ちの港として栄えた鞆では、長男が生まれると、木製の白い馬と台のセットを作り、町中を引き廻して健やかな成長を祝う珍しい行事がありました。江戸時代から続いていた行事ですが、昭和初期に廃れ、17年前（2002年）に地元の協力により復活しました。今では、男児だけではなく、男女問わず子どもの健やかな成長を祈り、鞆の浦の風情あるまちなかを「八朔の馬」の行列がゆっくりと進みます。

地元の企業や有志から協賛も多く、また子どもたちは毎年約60人の参加があります。地元の人に伝統行事として再認識してもらい、誇りに感じてもらうような行事となっています。

### 主催者メッセージ



年代物の馬から現代版の馬まで約10台が古い町並みを進み、子ども達の笑顔溢れる姿を地域の人々が沿道で声援します。出発前には中学生の太鼓の演奏、また大人達が音頭を取りながら行列を盛り上げます。ゴール地点では、地元女性陣による「八朔の料理」が参加者や見学者に振る舞われ、町をあげて子ども達の成長を祝います。

鞆の津 八朔の馬出し実行委員会  
事務局長

通堂 博彰さん



広島県  
福山市



### 開催DATA

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
| 自治体名  | 広島県福山市                                          |
| 自治体人口 | 469,878人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 鞆の津 八朔の馬出し実行委員会                                 |
| 開催回数  | 17回                                             |
| 開催日   | 2018年9月2日（日）                                    |
| 開催場所  | 福山市鞆町                                           |
| 観客数   | 2,000人                                          |



## 評価のポイント

- 国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている「富田林寺内町」の歴史的な景観を活用したイベント。
- 春・夏・秋・冬の年4回開催され、四季折々のまちなみを愉しむことができる特徴がある。
- 江戸時代からの風習を町全体で再現するなど、地域固有の風土や暮らしを守り、継承する取組となっている。

## 次回 開催日程

- 開催日：2019年8月24日 ■開催場所：富田林寺内町およびその周辺
- 問い合わせ先：
  - ・団体名 じないまち四季物語実行委員会
  - ・住所 〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1-1（富田林市商工観光課）
  - ・電話番号 0721-25-1000（内線483）（じないまち四季物語実行委員会事務局）
  - ・URL <https://www.city.tondabayashi.lg.jp/site/kirameki/16002.html>

## 選考委員 特別賞

## 第23回 ふるさとイベント大賞

# じないまち 四季物語

大阪府内で唯一、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている「富田林寺内町」。そこには国の重要文化財である旧杉山家住宅や興正寺別院などの歴史的な地域資源があり、現在でも江戸時代からのまちなみが残っています。当地区の四季折々のまちなみを愉しんでいただけるよう、地域の住民や商業者が行政などと連携し「じないまち四季物語」を開催しています。

「春」は、富田林寺内町を中心とする民家・商店やまち角にお雛様を飾り、菜の花と共に春の節句を祝う「じないまち雛めぐり」。

「夏」は、約1000基もの行灯でまちなみを幻想的に彩る「富田林寺内町燈路」。

「秋」は、旧暦9月9日（重陽の節句）にひな人形と不老長寿の花とされる菊を飾り、江戸時代からの風習を再現する「後の雛まつり」。

「冬」は、富田林寺内町の「冬」の佇まいと鍋料理の温かさや賑わいなどを味わっていただく「新春・初鍋めぐり」。

1年を通して計4回のイベントを開催しています。

## 主催者メッセージ



昔ながらのまちなみを残す「富田林寺内町」では、四季折々のイベントにより、その魅力を発信しています。約1000基もの行灯で、まちを幻想的に彩る催しや、まちかどや民家・商店の約100カ所へのお雛様の飾りつけ、また、まち全体で20種類以上の鍋料理などをふるまうなど、1年を通してさまざまなイベントを開催しています。

じないまち四季物語実行委員会  
会長

橋川 光司さん



大阪府  
富田林市



## 開催DATA

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
| 自治体名  | 大阪府富田林市                                         |
| 自治体人口 | 111,898人<br><small>※2018.12末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | じないまち四季物語実行委員会                                  |
| 開催回数  | 50回（2019.3.1時点）                                 |
| 開催日   | 8月第4土曜日、10月第2土曜日、1月第2土～月曜日のうち1日、3月第2土・日曜日       |
| 開催場所  | 富田林寺内町およびその周辺                                   |
| 観客数   | 25,800人（2017年度実績）                               |

東日本大震災以降、特に被災沿岸地域においては、地域コミュニティの衰退、地域文化の担い手の減少が顕著であり、この地で育まれてきた自然との関わり方や衣食住の生活様式などの「人の生きる術」が失われつつあります。被災沿岸地域の復興にとっては、この「人の生きる術」を蘇らせ、取り戻すことが重要であると考えられます。

本事業においては、これを「Reborn-Art (リボーン・アート)」※と名付け、その発見、再発見を通じて、被災沿岸地域における心の復興に資すると共に、被災沿岸地域における地域文化の再興・継承、文化芸術の振興及び文化芸術活動の担い手の育成を図り、もって文化芸術創造拠点の創出を図ることを目的とします(※Artは「人が生きる術」すべてを指すArsというラテン語が語源)。

2015年7月に実行委員会を設立し、2016年7月にプレイベントとしてReborn-Art Festival×ap bank festival2016を実施、延べ約4万人を集めました。

2017年の本祭では現代アートと音楽と食を三つの柱として掲げました。

アートとしては30以上の拠点到約40組のアーティストとによるアート作品を配置、音楽としては51日間毎日様々な場所で一期一会の音楽イベントを実施しました。

また、食としてはカフェ「はまさいさい」と「Reborn-Art DINING」を設け、地域の食材を全国のトップシェフと地元の料理人が協働する形で魅力的な料理に仕上げたほか、鹿の食害問題に対応すべく、鹿の食肉加工施設も設けました。

運営に当たっては地域住民の協力を得たほか、地域で文化活動をしている方々に表現の機会を持ていただきました。



## 次回開催日程

- 開催日：2019年8月3日～9月29日
- 開催場所：牡鹿半島、網地島、石巻市街地、松島湾  
(宮城県石巻市、塩竈市、東松島市、松島町、女川町)
- 問い合わせ先：
  - ・団体名：Reborn-Art Festival 実行委員会
  - ・住所  
〒986-0812 宮城県石巻市東中里二丁目1-1
  - ・電話番号：0225-90-4726
  - ・MAIL：info@reborn-art-fes.jp
  - ・URL：http://www.reborn-art-fes.jp

## 開催DATA

|       |                                                      |
|-------|------------------------------------------------------|
| 自治体名  | 宮城県石巻市                                               |
| 自治体人口 | 144,529人<br><small>※2018年12月末現在の住民基本台帳人口</small>     |
| 主催団体  | Reborn-Art Festival実行委員会                             |
| 開催回数  | 1回                                                   |
| 開催日   | 2017年7月22日～9月10日                                     |
| 開催場所  | 会場：宮城県石巻市(牡鹿半島、市内中心部)<br>※提携会場：松島湾(塩竈市、東松島市、松島町)、女川町 |
| 観客数   | 延べ260,000人                                           |

喜多方発21世紀シアターは、次代を担う子どもと地域文化の育成を目的に、喜多方プラザ文化センター、喜多方地方広域市町村圏内の街なかの蔵、店舗等を利用して開催する総合芸術フェスティバルです。

本事業では、本物の芸術文化に触れる機会の少ない地方の子どもたちに、芸術文化の側面から地域づくりを考え、行動するという趣旨に賛同いただいた団体、企業等と協力、連携しながら、プロによる一流のパフォーマンスや大道芸、舞台芸術など「本物」に触れてもらえる機会を創出します。

2017年8月4日（金）～7日（月）までの4日間、小学生から一般までの市民ボランティア延べ521人に支えられながら、喜多方市内及び喜多方地方広域市町村圏内の25会場において、舞台芸術創造団体75団体が芝居、音楽、落語、人形劇、音楽コンサート、大道芸など82作品、108公演を上演したところ、8,045人の皆様に観覧いただきました。

喜多方発21世紀シアターは、「0才の子どもが成人になるまで続けたい」という想いから、2000年から毎年実施しています。当初はワークショップを取り入れ、プロやアマチュアによる20分程度のショート公演を何作品かつなげての公演でしたが、プロによるフルサイズ（1時間程度）の公演を喜多方プラザ文化センターと街なかの様々な場所で行い地域全体で楽しむことができなかと考え、4年目以降は様々なジャンルの芸術文化公演が体験できる一大イベントとして成長しました。

福島県  
喜多方市



## 次回開催日程

- 開催日：2019年8月1日（木）～8月5日（月）
- 開催場所：喜多方市内（喜多方プラザ文化センター、地区公民館、大和川酒蔵北方風土館 東町蔵屋敷「会陽館」外）、喜多方地方広域市町村圏内（北塩原村立さくら幼稚園、裏磐梯幼稚園 西会津町中学校 外）
- 問い合わせ先：
  - ・団体名：喜多方発21世紀シアター実行委員会
  - ・住所：〒966-0094 福島県喜多方市字押切二丁目1番地（喜多方プラザ文化センター内）
  - ・電話番号：0241-24-4611
  - ・MAIL：info@kitakataplaza.jp
  - ・URL：http://21st.kitakataplaza.jp

## 開催DATA

|       |                                                                           |
|-------|---------------------------------------------------------------------------|
| 自治体名  | 福島県喜多方市                                                                   |
| 自治体人口 | 47,064人                                                                   |
|       | ※2018年12月末現在の住民基本台帳人口                                                     |
| 主催団体  | 喜多方発21世紀シアター実行委員会                                                         |
| 開催回数  | 18回                                                                       |
| 開催日   | 2017年8月4日（金）～8月7日（月）                                                      |
| 開催場所  | 喜多方市内（喜多方プラザ文化センター、地区公民館、大和川酒蔵北方風土館 外）、喜多方地方広域市町村圏内（北塩原村立さくら幼稚園、裏磐梯幼稚園 外） |
| 観客数   | 8,045人                                                                    |

J:COM×寒川びっちょり祭は、町民の交流の場を提供するとともに、町民・事業者・行政が協働で町内外からの誘客を促進し、地域活性化と元気な寒川町のイメージアップを図ることを目的に、水に関連性をもたせ、子供から大人まで楽しめるイベントです！

水鉄砲バトル（金魚すくいのポイを頭につけて、コート内で5人組のチームで対戦）、デンジャラスエリア（誰でも構わず水鉄砲で撃ちまくる危険エリア）、踊りまSHOW（日頃の練習の成果を発表するダンスチームによる華やかなショー）、模擬店、キッズプール（約10メートル四方の大きなプール）、冷（さ）ま〜ランド（巨大噴水）、ダダスベリ（手作りウォーターライダー）、ちびっ子ランド（ミニ噴水など）など様々な催しがあります。

寒川町には日本で最初の県営水道（昭和8年開始）の水源「寒川浄水場」があり、相模川をはじめ3つの川が流れているなど水にゆかりのある寒川町ならではのイベントができないかと2012年に誕生しました。開催にあたっては、町民の交流の場を作るとともに、水との深い関わりがあることへの住民への意識啓発に繋げ、町民が一体となってイベントを盛り上げていくことで観光誘客のきっかけになればと考えています。また、継続的に開催できるよう補助金に頼らず協賛金や参加料で運営できるよう工夫しました。このように、町民と共にイベントを作り上げていくことで、町民の郷土意識の高揚に繋げ、また、このイベントをきっかけに湘南の夏に対するイメージを変え、寒川ならではの夏の魅力をPRしていくことで、町のイメージアップを図っています。



神奈川県  
寒川町



### 次回開催日程

- 開催日：2019年8月18日（日）
- 開催場所：さむかわ中央公園
- 問い合わせ先：
  - ・団体名  
寒川びっちょり祭実行委員会
  - ・住所  
〒253-0105 神奈川県高座郡寒川町岡田1-15-1  
フジタビル1F 寒川町観光協会内
  - ・電話番号：0467-75-9051
  - ・MAIL：info@samukawa-kankou.jp
  - ・URL：http://www.samukawa-kankou.jp/

### 開催DATA

|                       |               |
|-----------------------|---------------|
| 自治体名                  | 神奈川県寒川町       |
| 自治体人口                 | 48,284人       |
| ※2018年12月末現在の住民基本台帳人口 |               |
| 主催団体                  | 寒川びっちょり祭実行委員会 |
| 開催回数                  | 6回            |
| 開催日                   | 2017年8月13日（日） |
| 開催場所                  | さむかわ中央公園      |
| 観客数                   | 11,600人       |

三國湊は、福井県一の大河「九頭竜川」の河口に位置し、古くは室町時代に成立した海洋法規集「廻船式目」において、三津七湊に数えられる全国有数の大湊でした。江戸中期から明治初期にかけては、北前船の寄港地として繁栄を極め、海運の拠点としてのまちの歴史とともに商人文化が花開きました。当時の繁栄の軌跡は、現存する三國湊独自の建築様式「かくら建て」のまちなみや約250年の伝統ある「三國祭り」から感じることができます。三國湊における地域資源とは、まちが成立して以来、育んできた伝統そのものであり、三國祭りをはじめとした祭事、芸能、文学等、そして数多くの才子を引き付けた風致です。それらは、まちの誇りであり、次世代へと継承していくため保存振興していく必要があります。このような背景・目的のもと三國會所では、約250年の伝統ある盆踊り唄「三國節」を親しみやすい流し踊りにアレンジし、帯の幅ほどのまちの中を踊り流す「三國湊帯のまち流し」を創設しました。2009年に試行的に実施し、2010年より本格的に開催して以来、年々参加者や参加団体が増加しており、地元の子供からお年寄りまで、さらには市外および県外の団体が参加する等活動の輪がどんどん広がっています。2017年度からは、地元の全小学校が参加することが決まり、目的である伝統文化の保存振興や知名度向上において大きな役割を果たしています。また、継続してイベントを開催してきたことにより、会場となる沿道には、個人宅や店舗、自治会毎に工夫を凝らした行燈を玄関前に自発的に飾る動きに繋がっており、幻想的な雰囲気を醸成するとともに、地域に根付いたイベントとなっています。



## 次回開催日程

- 開催日：第10回大会 2019年8月31日（土）  
予備日9月1日
- 開催場所：坂井市三國町市街地7コースから踊り流し  
駅前通りに集合して総踊り
- 問い合わせ先：
  - ・団体名：一般社団法人 三國會所
  - ・住所  
〒913-0046 福井県坂井市三國町北本町四丁目6-55
  - ・電話番号：0776-82-8392
  - ・MAIL：mikunikaisyo@gmail.com
  - ・URL：http://mikunikaisyo.org/

## 開催DATA

|                       |             |
|-----------------------|-------------|
| 自治体名                  | 福井県坂井市      |
| 自治体人口                 | 91,991人     |
| ※2018年12月末現在の住民基本台帳人口 |             |
| 主催団体                  | 一般社団法人 三國會所 |
| 開催回数                  | 8回          |
| 開催日                   | 2017年9月2日   |
| 開催場所                  | 坂井市三國町市街地   |
| 観客数                   | 8,500人      |

熊野市の山間部に位置する紀和町丸山地区では、日本の棚田百選にも選ばれている「丸山千枚田」があります。この丸山千枚田は、慶長6年（1601年）に2240枚の棚田ありましたが、平成初期には530枚まで減少し、千枚田消滅の危機を迎えました。しかし、地元住民の「先祖代々続く丸山千枚田を復元し、後世に残し伝えたい」という強い想いにより、1993年に丸山地区全戸による「丸山千枚田保存会」が結成されました。そして、この保存会による活動の結果、現在は1340枚の棚田が復元されました。

そして、この丸山千枚田を活用し、2004年の熊野古道の世界遺産登録を機に地域住民が中心となって丸山千枚田の「虫おくり」というイベントを開催しました。

「虫おくり」とは、1953年まで実際に丸山地区で行われていた行事で、地域の子どもたちが集まり、お寺からお札をもらって、松明と太鼓、鐘などを手に千枚田の中を「虫おくり殿のお通りだい」と唱え歩き火と音で害虫を追払うものです。これは、一粒でも多くの米を収穫したいという祈りの込められた、豊作を願う行事です。先人が行っていたこの「虫おくり」を農耕文化の一つとし、参加型のイベントとしています。

イベントでは、田んぼの枚数と同じ1340本の松明やキャンドルを棚田に灯もすとともに、幻想的な光景の中、地元の小学生やイベント参加者が実際に「虫おくり行列」に参加して、棚田を練り歩くことができます。

今では、この「丸山千枚田の虫おくり」は、丸山千枚田の夏の風物詩として定着し、大勢の観光客が訪れるようになっています。



## 次回開催日程

- 開催日：2019年6月8日（土）
- 開催場所：三重県熊野市紀和町丸山地区  
丸山千枚田内
- 問い合わせ先：
  - ・団体名  
丸山千枚田の虫おくり実行委員会
  - ・住所  
〒519-5413 三重県熊野市紀和町板屋82
  - ・電話番号：0597-97-1113
  - ・MAIL：chishin-en@city.kumano.mie.jp

## 開催DATA

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
| 自治体名  | 三重県熊野市                                          |
| 自治体人口 | 17,044人<br><small>※2018年12月末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 丸山千枚田の虫おくり実行委員会                                 |
| 開催回数  | 15回                                             |
| 開催日   | 2018年6月9日（土）                                    |
| 開催場所  | 三重県熊野市紀和町丸山地区 丸山千枚田内                            |
| 観客数   | 約1,000人                                         |

## ・事業目的

世界記憶遺産、日本遺産、イコモス認定、アニメ聖地88カ所指定を取得する舞鶴市を内外に広めるため、重要文化財赤れんが倉庫群に市外から興行主催者を招致してイベント会場設営全般のサポートを事業化し市街からのイベント観光客を、舞鶴市に多く迎える事を本事業の目的とします。

## ・実施内容

舞鶴市赤れんがパーク5号棟貸館イベント「艦これオンリー砲雷撃戦よーい36舞鶴鎮守府」の会場周辺地内にて来場者向けの地元食飲食テントブース「赤煉瓦マーケスin舞鶴2018」を展開しました。

## ・事業実績

来場者数およそ5,000人  
(内訳～京都府内20%・他府県80%)。  
経済波及効果2億円  
(他府県4,000×1名消費額5万円[旅費宿泊飲食])



## 次回開催日程

- 開催日：2019年7月14日（日）  
前夜祭2019年7月13日
- 開催場所：舞鶴市赤れんがパーク5号棟4号棟周辺
- 問い合わせ先：
  - ・団体名  
舞鶴鎮守府実行委員会
  - ・住所  
〒625-0020 京都府舞鶴市小倉3-3
  - ・電話番号：0773-62-2169
  - ・MAIL：aoba@be.to
  - ・URL：http://maizurumca.com/

## 開催DATA

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 自治体名  | 京都府舞鶴市                |
| 自治体人口 | 82,827人               |
|       | ※2018年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体  | 舞鶴鎮守府実行委員会            |
| 開催回数  | 6回                    |
| 開催日   | 2018年2月18日（日）         |
| 開催場所  | 舞鶴市赤れんがパーク5号棟4号棟周辺    |
| 観客数   | 5,000人                |



鳥取県  
鳥取市、若桜町、  
八頭町

鳥取県鳥取市から兵庫県姫路市までを結ぶ国道29号線は「因幡（いなば）街道」として、古くから山陰と山陽を結ぶ街道として鳥取県東部の人々にはなじみの深い道です。その国道29号を交通とは違う「観光エリア」として交流人口を増やそうと、2015年4月より民間と沿線自治体、交通事業者も連携して「29（ニク）ロードネットワークス実行委員会」が結成されました。29＝ニクとした理由は（1）語呂（2）国道29号は畜産業がさかん（3）地域資源「肉食」を活かす、そして何と言っても国道29号は日本でここしかないという4つの理由からです。

その29ロードネットワークスの主体事業が「29（ニク）ロードウォークです」。7、8月の「29日」に近い土曜日に、国道29号の29キロを沿線の肉を食べながら夜通し歩くというウォークイベントです。

ウォークの出発の若桜駅は第3セクター鉄道の終点であり、参加者はそのほとんどが列車で集合します。そこから八頭町一鳥取市へと北上、途中に2カ所エイドステーションで肉を食べ元気をチャージしながら鳥取駅前までのゴールを目指します。ウォークの運営はボランティアスタッフがウォークの先導から最後尾を誘導します。みんなでペースを合わせてオールナイトで歩き食べという他にはない達成感があり、さらに参加者同士の絆が深まる機会にもなっています。

2015年8月の1回目は定員の倍となる180人が参加、2年目からは定員も290人とし、これまでに県内外から約800人が参加＆完歩＆完食をする大会となっています。2018年からは昼間にニク（2×9）＝18キロ食べ歩く「デイウォーク」も始まり、国道29号をニク絡みで歩くということが浸透しつつあります。

私たちの合言葉は「NICE TO MEAT YOU!」。楽しい出会いが生まれる国道29号線の魅力創りをこれからも進めていきます。そして肉の道の輪を全国に広げていきたいと思っています。



### 次回開催予定日程

- 開催日：2019年7月か8月の月末土曜日
- 開催場所：若桜町一八頭町一鳥取市の国道29号
- 問い合わせ先：
  - ・団体名  
29ロードネットワークス
  - ・住所  
〒680-0056 鳥取市職人町29若桜ビル2階
  - ・電話番号：0857-25-5507
  - ・MAIL：29road@tottori.to
  - ・URL：https://www.facebook.com/29road/

### 開催DATA

|       |                                                   |
|-------|---------------------------------------------------|
| 自治体名  | 鳥取県鳥取市、若桜町、八頭町                                    |
| 自治体人口 | 約210,000人<br><small>※2018年12月末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 29ロードネットワークス                                      |
| 開催回数  | 3回                                                |
| 開催日   | 2017年7月29日                                        |
| 開催場所  | 鳥取県若桜町の若桜駅から鳥取市の鳥取駅まで<br>(約29km)                  |
| 参加数   | 約300人                                             |

大田市には世界遺産「石見銀山遺跡」があり、また、伝統芸能である「石見神楽」があります。2017年7月に世界遺産登録10周年を迎えるにあたり、これらを活かしたオペラを制作・上演し、ふるさとの活性化につなげたいと、女性合唱団体が立ち上がりました。

取り組みの輪は、音楽関係者はもちろん、地元の商工団体、女性や青年団体、県外の市人会まで広がる中、オペラ制作や資金集めが進められました。

オペラの制作と並行し、出演者を公募し、出演する市民（高齢者から小学生まで）は、石見銀山の歴史を学びながら、熱心に練習を重ねました。

世界遺産登録10周年当日に、夜昼2回の大田公演を行いました。いずれも満席で、拍手喝さいの大盛況となりました。公演会場の屋外広場では、オペラ公演と一緒に盛り上げたいという青年団体有志により地元産品等を提供する屋台の出店や神楽の上演もあり、会場の内外で大きな盛り上がりを見せました。市民をはじめ、多くの人に感動を与え、世界遺産登録10周年の目玉事業となりました。

大田公演の後は、東京市人会からの熱心な働きかけがあり、東京公演まで行い、観光PRにつながるとともに、実行委員会や地元出演者にとっては、ふるさとへの大きな自信と誇りにつながりました。

その盛り上がりは、1年を経過した今も、市民の間で抱き続けられており、地元の演奏会等でその楽曲を歌い続けながら、世界遺産登録15周年の再演に向け、再スタートが切られています。



島根県  
大田市



### 次回開催日程

- 開催日：2020年7月頃  
(オペラ内の楽曲によるコンサートを予定)
- 開催場所：大田市民会館
- 問い合わせ先：
  - ・団体名  
オペラ「石見銀山」実行委員会
  - ・住所  
〒694-0041 島根県大田市長久町長久イ555
  - ・電話番号：0854-82-0170
  - ・MAIL：(HP問合せフォームから)
  - ・URL：<https://opera-iwamiginzan.jimdo.com/>

### 開催DATA

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
| 自治体名  | 島根県大田市                                          |
| 自治体人口 | 34,914人<br><small>※2018年12月末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | オペラ「石見銀山」実行委員会                                  |
| 開催回数  | 2回                                              |
| 開催日   | 2017年7月2日（昼夜2回公演）                               |
| 開催場所  | 大田市大田町 大田市民会館                                   |
| 観客数   | 1,772人                                          |



芦屋町の海水浴場は、広大な砂浜が広がり、冬場は海からの強風により町内に砂が飛散します。非常に迷惑な砂ですが、とても粒子が細かく、活用方法がないか検討した結果、砂で造る彫刻に最適な砂であることがわかり、砂の彫刻（砂像）として展示することに至りました。過去には、海水浴場を利用して「砂浜の美術展」として展示をしていましたが、財政難となり2005年に休止を余儀なくされました。しかし、多くの再開を望む声が後押しとなり、2014年に「あしや砂像展」としてリニューアルし再開することになりました。

毎年変わるテーマに基づき、海外から招いたプロの砂像彫刻家、国内で活動する砂像愛好家団体から地元の中학생まで、様々な人々による砂像制作が行われます。プロが造る砂像では、大きなもので幅12メートル、高さ5メートルほどになり、砂で造ったとは思えないほど繊細で美しい砂像が会場に登場します。2017年のテーマは「祭り」。日本や世界で開催されている個性的な「祭り」を砂像で表現し、来場した多くのお客様に楽しんでいただきました。

実行委員会には、住民も参画し、会場設営なども町内業者の協力の下、芦屋町全体で取り組み、迷惑なものを魅力あるものへと活用させたすばらしいイベントです。



福岡県  
遠賀郡芦屋町

### 次回開催日程

- 開催日：2019年10月18日（金）～11月4日（月・祝）  
※2019年2月時点での予定
- 開催場所：芦屋海浜公園レジャープールアクアシアン
- 問い合わせ先：
  - ・団体名  
あしや砂像展実行委員会
  - ・住所  
〒807-0198 福岡県遠賀郡芦屋町幸町2-20
  - ・電話番号：093-223-3542
  - ・MAIL：kanko@town.ashiya.lg.jp
  - ・URL：https://www.ashikan.jp/sazouten/

### 開催DATA

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
| 自治体名  | 福岡県遠賀郡芦屋町                                       |
| 自治体人口 | 13,913人<br><small>※平成30年12月末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | あしや砂像展実行委員会                                     |
| 開催回数  | 4回                                              |
| 開催日   | 2017年10月20日（金）～11月5日（日）                         |
| 開催場所  | 芦屋海浜公園レジャープールアクアシアン                             |
| 観客数   | 約36,000人                                        |

例年、町の人口を上回る3万人以上が訪れる九州最大規模のスイーツイベント「FUKUCHI FIND FESTIVAL 福智スイーツ大茶会」。地元で育まれた「食」、国指定伝統的工芸品・上野焼（あがのやき）の「器」、童謡作曲家・河村光陽の生誕地として醸成した「音楽」という福智町ならではの「食」と「器」と「音楽」の魅力を融合させた地域ブランド化を担う町おこしイベントです。

2011年度から毎年開催している「FUKUCHI FIND FESTIVAL」は、初回にご当地グルメ「福智名物・方城すいとん」の発掘、2回目に新特産品「ふくち☆リッチジェラート」の開発など、地域資源開発と一体となって展開し、3回目から上野焼の茶陶としての魅力の発信と一期一会のおもてなしをテーマにした「福智スイーツ大茶会」へと発展してきました。

新たな特産品開発や新種開発を積み重ね、上野焼との数々のコラボ企画を実現させながら、年を重ねるごとに魅力とスケールを高めてきた

「福智スイーツ大茶会」。50店を超える福岡県内の有名スイーツ店の逸品のほか、ふるさと納税の返礼品生産者が腕を振るう「福智グルメストリート」をはじめ、毎回新たな地域資源に出会えるのも魅力。上野焼茶会や上野焼茶道ワークショップなど、伝統的な茶器に触れる企画も毎年大好評です。

会場内では「福智町音楽祭」を展開し、町内音楽団体や多彩なアーティストが生演奏やコーラスで「音楽の町」ならではのステージをお届け。「上野焼秋の窯開き」や平成筑豊鉄道の「へいちくフェスタ」など同日連携開催による相乗効果も生み出し、大茶会は町のシンボルイベントに位置づけられています。

福岡県  
福智町

## 次回開催日程

- 開催日：2019年10月19日（土）・20日（日）
- 開催場所：福智町金田ドーム
- 問い合わせ先：
  - ・団体名  
福智町・福智スイーツ大茶会実行委員会
  - ・住所  
〒822-1292 福岡県田川郡福智町金田937番地2
  - ・電話番号：0947-22-7766
  - ・MAIL：fg0500@town.fukuchi.lg.jp
  - ・URL：http://www.town.fukuchi.lg.jp/

## 開催DATA

|                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 自治体名                  | 福岡県福智町               |
| 自治体人口                 | 22,991人              |
| ※2018年12月末現在の住民基本台帳人口 |                      |
| 主催団体                  | 福智町・福智スイーツ大茶会実行委員会   |
| 開催回数                  | 7回                   |
| 開催日                   | 2017年10月14日（土）・15（日） |
| 開催場所                  | 福智町金田ドーム             |
| 観客数                   | 延べ約30,000人           |

ペーロンとは、舟漕ぎ競争の一つであり、もともと中国から伝えられたものです。中国語の白龍（パイロン）が語源と言われています。茶北町のペーロンは1670年代に端午の節句（旧暦5月5日）に男の子の健康を願い、また大漁を祈って行う行事として長崎市から伝来したと言われ、今年で約350年を迎える茶北の真夏を彩る風物詩となっています。ペーロンが伝えられた当時、ペーロン競漕の時期には、血肉に湧かせ血気にはやる若者たちの喧嘩騒ぎが絶えず、奉行所がたびたび禁止令を出したと記録が残っているほどその熱気はすさまじいものでした。天草茶北ペーロンは戦後一時中断されていましたが、このペーロン文化を保存・継承するため1987年に「子供ペーロン大会」として子どもペーロンが、1989年に「九州ペーロン大会」としてペーロン競技が完全復活しました。この「九州ペーロン大会」は、天草れいほくペーロン大会の前身となる大会であり、本大会は例年県外を含めた約30チーム（第29回大会は29チーム参加）が参加し、一般男子の部、男女混成の部、小学生の部において白熱したレースが展開されます。大会開始当初から大会スタッフとして尽力される方がいたり、小中学校ではペーロンの練習を校内のプールで行ったりと夏の風物詩として今なお町民に広く根付いております。また、本大会は地域間交流の一環として、県外からのチームも参加されており、県外からはペーロンの本場である長崎県長崎市、本町と友好姉妹都市である佐賀県唐津市より参加があります。交流人口の拡大や観光振興も目的としており、大会参加者のみならず一般のお客様にも足を運んでいただき、地元への経済効果や地域活性化にも一役買っているイベントであると言えます。



熊本県  
天草郡茶北町



### 次回開催日程

- 開催日：2019年7月14日（日）
- 開催場所：熊本県天草郡茶北町富岡（富岡港袋湾）
- 問い合わせ先：
  - ・団体名  
茶北じゃっと祭実行委員会
  - ・住所  
〒863-2503 熊本県天草郡茶北町志岐660番地  
（茶北町役場商工観光課内）
  - ・電話番号：0969-35-1111
  - ・MAIL：kankou@town.reihoku.lg.jp
  - ・URL：http://reihoku-kumamoto.jp

### 開催DATA

|       |                                                |
|-------|------------------------------------------------|
| 自治体名  | 熊本県天草郡茶北町                                      |
| 自治体人口 | 7,281人<br><small>※2018年12月末現在の住民基本台帳人口</small> |
| 主催団体  | 茶北じゃっと祭実行委員会                                   |
| 開催回数  | 29回                                            |
| 開催日   | 2017年7月23日（日）                                  |
| 開催場所  | 熊本県天草郡茶北町富岡（富岡港袋湾）                             |
| 観客数   | 3,500人                                         |

# 白鬚田原神社の どぶろく祭り

毎年10月17日、18日の2日間、白鬚田原神社の秋祭りに国税庁の許可を得て、境内の酒造庫で造った「どぶろく」を参拝者に振る舞う古式ゆかしい祭り行事です。

この祭りは710年（和銅3年）の神社創建以来、秋の大祭に氏子のご神前に「どぶろく」をお供え、ご神特を敬い、五穀豊穡、無病息災を祈るために始められたと伝えられています。

神前に供え、そのお下がり「神霊の宿る長寿の薬」として氏子や参拝者が頂いていたという「どぶろく」は、江戸時代までは自由に醸造していましたが、明治の酒税法改正により、古代より中断なく毎年醸造していた神社に限り許可され、今でも続けられています。

大祭における「どぶろく」の醸造や振る舞いは古くから長い歴史を経ながら、その時、その時代で色々なしきたりをつくり今日に伝えています。神社では「とうや行事」（国選択無形民俗文化財）として、祝組（ほうりぐみ）、神元（じがん）、杜氏の三者が一体となって奉仕しています。

1965年頃は100リットル前後の醸造量でありましたが、1975年頃から年々参拝者が多くなるに連れて、少しずつ醸造量を増やしてきました。今では県内外各地から「どぶろく」を求めて多くの参拝者が訪れるようになり、両日で1,800リットルを超えるどぶろくの振る舞いが行われています。

山村の小さな集落の氏子50戸余りで行っているこの祭りも高齢化率が50%を超え、この伝統行事を継続することが厳しい状況になっていますが、地区外の方のご協力を得ながら先代から受け継いだ伝統あるどぶろく祭りを持続可能なものとし、今後も後世に伝えていきたいと願っています。



大分県  
杵築市



## 次回開催日程

- 開催日：2019年10月17日（木）～10月18日（金）
- 開催場所：大分県杵築市大田沓掛1693 白鬚田原神社
- 問い合わせ先：
  - ・団体名  
どぶろく祭りイベント実行委員会
  - ・住所  
〒879-0901 大分県杵築市大田石丸445  
（杵築市役所大田振興課内）
  - ・電話番号：0978-52-2222
  - ・MAIL：o-sinkou@city.kitsuki.lg.jp

## 開催DATA

|                       |                       |
|-----------------------|-----------------------|
| 自治体名                  | 大分県杵築市                |
| 自治体人口                 | 29,437人               |
| ※平成30年12月末現在の住民基本台帳人口 |                       |
| 主催団体                  | 白鬚田原神社                |
| 開催回数                  |                       |
| 開催日                   | 2017年10月17日～10月18日    |
| 開催場所                  | 大分県杵築市大田沓掛1693 白鬚田原神社 |
| 観客数                   | 10,000人               |

## 第23回ふるさとイベント大賞

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することによって、ふるさとイベントの更なる発展を応援することを目的に設けられた賞です。

今回で23回目を迎え、第22回までに、162の個性豊かなイベントを表彰しています。

今後も、ふるさとイベントの創造・発展を促すことで、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、内外との交流による地域の活性化を目指しています。

### ●応募対象イベント

平成29年7月1日から平成30年6月30日までに市区町村（広域を含む）で開催されたイベント。

ただし、以下のいずれかに該当するイベントは対象外とします。

- ・直近の5回（第18回～第22回）に大賞及び最優秀賞等各賞を受賞したイベント
- ・継続性がなく1回の開催のみで終了するイベント

### ●選考過程

イベント主催団体から、市区町村等を通じ、都道府県へ応募書類を提出していただきました。今回の応募総数は144件でした。

応募されたイベントについては、イベントプロデューサーや学識経験者等により構成される「第23回ふるさとイベント大賞選考委員会」において、厳正な審査を行い、受賞イベントを決定しました。

なお、選考にあたり、下記の選考基準をもとにイベント内容を総合的に判断しました。

### ●選考基準

|     | 評 価 の ポ イ ン ト                                                                                                                                                                                         |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 企 画 | <ul style="list-style-type: none"><li>・地域資源を積極的に活用している。<br/>（地域資源：風土、産業、食文化、伝統文化、歴史、特産物、建築物・構造物など）</li><li>・独創性に溢れ、新たな地域の魅力を創り出している。</li><li>・多くの人を惹きつける魅力がある。</li><li>・魅力を増すための創意工夫が顕著である。</li></ul> |
| 効 果 | <ul style="list-style-type: none"><li>・地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果がある。（低予算でも波及効果が大きいなど）</li><li>・地域の知名度アップに貢献している。</li><li>・地域住民の郷土意識の高揚に繋がっている。</li><li>・伝統文化の継承や新しい文化の創造に繋がっている。</li></ul>             |
| 運 営 | <ul style="list-style-type: none"><li>・地域住民が積極的に参加している。（参加することに誇りを持っている。）</li><li>・地域の内外を問わず、交流や連携が行われている。</li><li>・継続して開催されており（継続される見込みがあり）、将来の発展性が見られる。</li></ul>                                   |





## KYOTO SIDE

### キョウトサイド

京都にはまだまだ知られざる一面がたくさんあります。

紺碧の日本海に面した昔ながらの舟屋、かやぶきの家が立ち並ぶ自然豊かな里山、一面に広がる緑の雄大な茶畑…日本人の心の原風景が、この京都府内にはあふれているのです。

そのような京都の魅力を、京都を愛するみなさんのチカラでもっと広めていきたい。

KYOTO SIDEは、京都府が持つ独自の魅力や情報をグローバルに発信し、共有していく地域情報発信WEBサイトです。



### 観光



ライターが実際に現地へ働き、厳選した京都府内のとっておきの観光情報です。いま本当に行きたい場所が盛りだくさん！

### グルメ



グルメやスイーツ、名物のお茶まで、魅力のラインナップ。食の宝庫・京都で見つけた「おいしいもん」をご紹介します。

### イベント



京都の三大祭りに加えて、話題のご当地イベントや人気のアクティビティまで、おでかけ時に役立つ情報をお届けします。

### 人



きっとあなたも、この人に逢いに現地へ行きたくなる！？府内で頑張るステキな“京都人”にスポットを当てました。



### もうひとつの京都

京都には、世界的に有名な古都京都に加え、茶畑が広がる府南部地域の「お茶の京都」、里山の風景を残す中部の「森の京都」、美しい海の景観が楽しめる北部の「海の京都」、清らかな竹林の広がる「竹の里・乙訓」があります。



#### 海の京都

京津市、京丹後市、舞鶴市、福知山市、綾部市、伊根町、与謝野町



#### 森の京都

亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、綾部市、京都市右京区京北



#### お茶の京都

宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、木津川市、久御山町、井手町、宇治田原町、笠置町、和束町、精華町、南山城村



#### 竹の里・乙訓

向日市、長岡京市、大山崎町



京都府

# モチベーションマネジメントで

## 職場環境を醸成

### ―マッセOSAKA

#### 「働き方改革を踏まえた

#### 組織マネジメント研究会」―



吹田市教育委員会  
地域教育部青少年室

● 田中 友梨

#### マッセOSAKAの紹介

マッセOSAKA（おおさか市町村職員研修研究センターの愛称）は、1995年に大阪府内市町村職員を対象とした広域的な研修研究機関として設立された。「マッセ」はmake up sensibility（感性を育てる）の頭文字からとった造語であり、「頑張りまっせー」など大阪弁でもある。研究事業は、市町村独自の政策形成の向上を図るため、広域的かつ将来的な課題や政策について提言等を行うことを目的としている。本稿で紹介する「研究会」は研究事業のひとつで、学識経験者の助言・指導を求めながら、市町村職員や関係者と共同して調査・研究を行っている。

なお、研究会の詳細や、報告書などの成果物は、マッセOSAKAのホームページから随時情報発信している。

(<http://www.masse.or.jp/>)

#### 「働き方改革を踏まえた組織マネジメント研究会」について

マッセOSAKAでは、2017年度に「自治体職員の働き方改革研究会」を実施し、自治体職員の働き方の現状と課題をさまざまな面から調査・分析し、今後どのような働き方を実現すべきか、具体的に提言した（「地域づくり」2018年4月号参照）。

本研究会は、2018年5月、財務省財務総合政策研究所研修部長兼人事院公務員研修所教授の高嶋直人

氏の指導のもと、研究活動をスタートさせた。個人の働き方改革に着目した昨年度の研究会とは対照的に、組織マネジメントに着目した。「業務に対するモチベーション調査」（詳細は後述）により明らかになった課題を中心に議論を重ね、本年2月に成果報告会を開催した。なお、研究成果や提言、各地での視察報告等をまとめた報告書については本年3月に発行された。次章でその一部を紹介する。

#### モチベーション

#### マネジメントのすすめ

前述の通り、地方自治体職員の働き方に関する実態を把握するためにアンケートを実施し、分析を試みた結果、管理職と非管理職とで働き方に対する考え方や感じ方、意識や価値観、モチベーションに差異が見られた。これは我々にとって大きな発見であり、こうした差異を埋めること、そもそも差異があることを意識することによって、一人一人が働き方改革を自分事として捉え、より良い職場環境を醸成できるのではないかと考えた。そこで、アンケート結果から明らかとなった課題について、下記の提言を行いたい。

#### （1）仕事量

仕事量については、困難度の高い業務が多いと思っている職員が多いことと、年齢によって業務量に差があることが明らかとなった。困難度の高い業務を円滑に進めるためには、その業務内容に特化した研修を積極的に導入することが有効である。また、年齢による業務量の差を埋めるためには、適切な人員配置とともに業務内容を精査する機会を設けることも有効である。組織全体で業務改善に取り組むことによって、各部署の安定的な業務遂行に繋がると考えられる。

#### （2）人材マネジメント

管理職は非管理職に対して指示待ちの者が多いと感じており、非管理職は管理職に対して強いリーダーシ

ップを求めていることが明らかとなった。管理職と非管理職が両輪となって業務を遂行するためには、管理職のマネジメント力の充実と、非管理職の組織に対する貢献力の充実の双方が重要である。管理職にはマネジメント研修、非管理職にはフォロワーシップ研修を実施することにより、上からの動き、下からの動きによる相乗効果が生まれ、仕事の効率アップに繋がると考えられる。

### (3) 組織マネジメント

組織マネジメントについては、職員の適性に応じた人事配置、業務量に応じた職員の配置が最も求められていることが明らかとなった。現行の人事評価制度や庁内FA制度を活用し、職員の適性や業務遂行能力を把握し、検証・評価することにより、適切な人事配置が可能になる。また、組織としてこうした人事運用を行っていくためには、人事に関する専門知識の習得は不可欠である。人事について学ぶことができる研修等の機会があることで、人事の専門性が担保される。これによって円滑な組織マネジメントが可能となると考えられる。

### (4) モチベーション

モチベーションが上がる要因とし

て、管理職は仕事へのやりがいや社会貢献を、非管理職は自身の成長や職責、ワーク・ライフ・バランスなどをそれぞれ挙げており、働くことそのものの価値観が異なっていることが明らかとなった。そのため、キャリア研修を行って組織での活躍を後押しすることにより、若手職員が将来の見通しを持てるようになると考えられる。また、若手職員に積極的に業務を回すことが可能になると、前述の仕事の適切な分担にも繋がる。また、時間や場所に縛られない勤務体制や休暇の取得促進によって、働き方そのものの質を高めることに繋がっている事例もあるため、そうした制度を取り入れることも有効的であると考えられる。

### (5) コミュニケーション

業務内のコミュニケーションにおける管理職と非管理職の感じ方は同じであったが、業務外の感じ方にはギャップがあった。これは、時代背景や価値観の違いによる影響も大きいと考えられるため、むしろ業務内でのコミュニケーションの質を高めることが重要であり、ギャップがあるからこそ、丁寧に説明することや、相手の立場を理解しようとする姿勢が大切になってくるのだと再認識さ

せられた。

### 研究会を振り返って思ふこと

働き方改革の推進には、さまざまな事例を見て良いところをどんどん取り入れ、実践するフットワークの軽さとともに、組織マネジメントの下での制度改革によって働きやすさや働きがいを保証し、発信し共有し浸透させる意識改革が大きな鍵となる。そして、それらがバランス良く機能してこそ、実践に結びつく改革となるのである。

この2年間研究会に参加して、さまざまな企業や地方自治体の視察を踏まえ、議論を重ね、自治体職員としての働き方改革とともに自分にとっての働き方とも向き合ってきた。障害があるという制約の中でいかに働くのかという自身の問いをキャリア自律の視点から整理することができ、理想とする働き方を追究し続ける意義を実感できたことは、今後の

私の職業人生において大きな意味があった。働き方改革が成功している企業や自治体に共通するのは、個を大切にし、個々の働き方を尊重しているところである。多様性をベースとした働き方改革の推進により、より多くの人が自分らしく働ける社会になるこそが、その目指すべきところであると考えられる。



研究成果報告会の様子

# 宝くじは、 みなさまの豊かな暮らしに 役立っています。

消防団の方々と  
防災学習!



一輪車に乗れるようになりました～!



桜の若木が  
こんなに育ったよ♪



みんなで仲良く  
読み聞かせ!



街を華やかに  
彩ります♪



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、  
少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、さまざまなかたちで、  
みなさまの暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や  
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。



一般財団法人

日本宝くじ協会

<http://jla-takarakuji.or.jp/>

